

0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 2

週報

二十二月十七日號

第一六七號

昭和十四年十月一日
昭和十四年十月二十七日

（毎週）同水曜日發行
（毎週）同水曜日發行

五錢

國際政局回顧と展望
 鐵道貨物輸送の實情
 青少年義勇軍現地報告座談會
 事變第三年の海軍作戰
 敵の冬季攻勢
 ◇興亞奉公日の元旦
 昭和十四年後半期週報總目錄
 バルカンの情勢
 北樺太利權企業の現況

週報

昭和十四年十月一日
昭和十四年十月二十七日

（毎週）同水曜日發行
（毎週）同水曜日發行

内閣印刷局印刷發行



ビタミンBが体内に缺乏すると食欲不振に陥り、結核菌に對する抵抗力が減退し、尙結核菌の増殖が著明となることが實證され、これらの障礙はオリザニンによるビタミンBの豊富な補給によつて好結果が期待出来る。

50錠 1.20

東京・日本橋・室町 三共株式会社

(判[A5]格規定國はさき大の書本)



露光量違いにより重複撮影

週報 (十一月十七日)

昭和十四年の
 閣議政局回顧と展望
 外務省情報部
 鐵道運輸の實情 鐵道省
 北條大輔閣議の現況
 商工省局長
 十一月十六日
 大政の意義
 事變第三年の海軍作戦
 敵の冬季攻勢
 バルカンの情勢
 昭和十四年下半期要目録

週

十一月十七日
 農林省、米穀の強制買上権、地方長官委任を通過、中小企業調査第二回報告、首相官邸に開催、英、照國九週軍機雷に英のものにあらず、同答、重慶政府の冬期攻勢に關し支那派遣軍報道部長談話發表、東郷駐ソ大使、漁業條約に關しモロツノ外務人民委員と會談、十一月十六日、總動員物資使用收用令公布、十一月十七日、山陽丸英國沖に於て英官憲の檢索を受く、十一月十七日、獨逸空襲シムエー、モンテ、十一月十八日、日印通商條約に關し外務省情報部發表、十一月十九日、野村外相、クルー駐日米大使との第三次會談に於て、南京下流の揚子江並びに珠江開放の意あるところを説明、英佛獨伊にも同接通告、政府と政黨黨首との第二回黨議會開く、北海ヘリマランド島上空に英獨空中戦行はる、十一月十九日、與商船、ロンズス、十一月五日、野村外相、クレイギー駐日英大使と揚子江開放並びに天津南問題に關し會談、十一月二十日、英海軍艦隊、十一月二十一日、今週の要、十一月二十二日、第一回勞務動態調査實施

露光量違いにより重複撮影

週報 (十二月二十七)

昭和十四年の 国際政局回顧と展望 外務省情報部... 鐵道貨物輸送の實情 鐵道省... 北樺太利権企業の現況 商工省燃料局... 昭和十四年下期總目錄

週

十二月十四日(水) 農林省、米穀の強制買上權、地方長官委任を通過... 十二月十五日(木) 重慶政府の冬期攻勢に關し支那派遣軍報道部長談話... 十二月十六日(金) 獨商船コロンプス號(三三、五六五ト)自沈... 十二月十七日(土) 獨商船シムベール號、モンテヴィデオ港外で自爆... 十二月十八日(日) 日印通商條約に關し外務省情報

日誌

十二月十七日(土) 獨商船シムベール號、モンテヴィデオ港外で自爆... 十二月十八日(日) 日印通商條約に關し外務省情報

今週の盾

十二月三十一日 第一回勞務動態調査實施

昭和十四年の…… 國際政局回顧と展望

外務省情報部

目まぐるしい變轉の一年

ズデーテン問題の餘蘊收らず、中欧の動搖いよ／＼深刻なるものがあり、加ふるにチュニス問題によつて風雲の捲き起らんとする地中海の情勢をもち越して迎へた昭和十四年の歐洲は、四年越しのスペイン戦争がやうやく終末を見て平和の希望が現はれたのも束の間、三月には突如としてチュニコの崩壊に端を發し、續いてメーメル同收、アルパニアの合併となり、獨伊樞軸の攻

勢は全歐洲を震撼させたのである。

この情勢に對し、イギリスがドイツを抑へようと、ドイツ包圍政策を進めるや、突如として獨ソの提携成り、ここに英獨の抗争は、遂にダンチヒ問題の爆發を契機として英佛の對獨宣戰となり、第二次大戦の勃發を見るに至つた。

かくて、ドイツ軍のポーランド進撃と相呼應して、ソ聯も赤軍を進め、ポーランドは獨ソ兩國によつて分割されたのであるが、なほも、勢ひに乗じたソ聯は、バルチック

ク三國を制壓し、さらにフィンランドに迫り、遂にソ芬の開戦となり、俄然、北歐の事態は急を告げてゐる。

また、バルカンに於ても、ソ聯のベッサラビア同收が傳へられ、ソ羅國境を挟んで大軍が動員されつゝあり、まさに一觸即發の危機を孕んでゐる。従つて、バルカンを繞る英、獨、佛、伊の對立は甚だ複雑深刻を極め、たゞに中立維持に苦慮するバルカン諸國の動きも、頗る微妙なものがあり、バルカンの情勢は混沌たる不安に包まれてゐるのである。

かくの如き情勢の下に、英獨爭戰は、専ら封鎖、通商破壊戦を以て應酬されてをり、未だ西部戦線に決戦の行はれる模様なく、大體に於て長期戦へ發展し、さうな傾向を示してゐる。しかしこの間、ヒトラー總統の休戦提議を初め、英獨双方に於て、頻りに和平工作も行はれてゐるやう報ぜられ、早期休戦説も傳へられてゐる。

隨つて東亞の情勢を見るに、支那事變は第三年を迎へて事態は新東亞建設の段階に入り、新中央政府誕生の機運を迎へて、わが事變處理も漸次具體化されるに至つ

たが、これに伴つて、在支權益を繞る列國の動きはいよいよ積極的となり、日英會談が開かれ、日米通商條約の廢棄が行はれ、ノモンハン事件が勃發する等、事變を繞る國際關係は一段と複雑を加へて來た。

獨伊、中欧制壓の態勢

新春の六日、チ洪國境に於ける砲聲に波瀾を豫想された歐洲の外交は、早くも一月十一日からのローマに於ける英伊會談によつて幕が開かれた。

英伊會談は、前年末から持ち越した佛伊のチュニス問題及び、終末近しと豫想されてゐるスペイン戦争問題がその中心であつたが、會談の結果は何等の收穫を得られなかつた。

しかし、スペインの戦局は、前年末から最後の攻撃に移つたフランコ軍は一月二十六日、遂に赤色政權の根據地であつたバルセロナを陥れ、戦局の大勢は決してフランコ軍の勝利は確定的となつた。よつて、イギリス政府は二月二十七日フランコ政權の正式承認を發表し、フ

ランスその他の諸國もこれに倣つた。かくて三月二十八日、フランス軍は首都マドリッドに入城し、こゝにスペイン戦亂は全く終末を告げ、昭和十一年（一九三六年）以來歐洲の平和に大きな不安を與へてゐた禍根が一つ消滅したのであつた。

しかるに、三月十一日、突如としてスロヴァキアに勃發した政變は、遂にチェッコ・スロヴァキア共和國の崩壊の導火線となり、チェッコはドイツ領に合併され、スロヴァキアは保護領となり、同時にルテニアはハンガリーに合併されるに至つた。

しかも、ドイツはチェッコ合併の餘勢を驅つて、三月二十二日、一舉にしてメーメルを奪取し、それと相呼應するが如く、四月十三日を以てイタリアもアルバニアの合併を成就し、中歐及びバルカンは將に獨伊の制壓に歸せんとする情勢となつた。

必死の戦争回避工作

チェッコの崩壊に次いで来るべきものは、ポーランド及

ブルーマニアの危機であると一般に見られてゐた。よつてイギリスは佛を誘つて、ポーランド、ルーマニア、トルコ、ギリシア等の諸國に對して保障を與へ、これ等の諸國を糾合してドイツ包圍陣を結成して獨伊の進出を抑へようとしたのである。イタリアのアルベリア出兵と時を同じうして、英波の暫定的相互援助條約が發表され、續いてルーマニアその他の國との間にも保障協定が結ばれた。

なほ、英佛はソ聯をも對獨共同戦線に起たしめるために、三月下旬からモスコウに於て三國の交渉を開始したが、バルチック諸國の保障問題が難關となつて、交渉は容易に進捗しなかつた。

しかるに一方二月頃から獨波間にグンチヒ問題に關する交渉が進められてゐたが、チェッコ崩壊後は、グンチヒに於ける獨波の抗争が激化し事態は刻々悪化の傾向を辿つた。

かうした情勢を打開して、第二次大戦への危機を避け、るために英獨佛等の各國によつて幾多の努力が試みら

れた。四月十四日にルーズヴェルト大統領がヒトラー總統並びにムッソリーニ首相に送つた平和勸告もその一つであつたが、これ等の努力は事態を緩和するのに効果がなかつた。情勢はますます悪化するばかりであつた。

しかも、英佛ソ三國交渉は難航を重ねて進捗せず、トルコを繞る英、佛、獨、ソの外交戦は深刻を極め、英佛、土協定も正式調印に至らず、イギリスの計畫するところのドイツ包圍陣の結成は頗る困難を來しつゝあつた。

その上、ポーランドの態度は、英佛等の援助を得るに類する強硬であり、これに對してドイツ側もグンチヒ工作を積極的に開始するやうになり、大戦避け難しとの風説が頻りに傳へらるゝに至つた。

歐洲戦争遂に勃發

五月六、七兩日に亙つて行はれた獨伊兩外相のミラノ會談の結果、二十二日に至つて獨伊同盟が締結された。

この同盟によつてドイツの立場は一段と強化されたと思はれたが、さらに、ドイツをして敢然ポーランド進軍の

決意を固めさせたものは、獨ソの提携であつた。

八月二十一日、突如として獨ソの間に不侵條約が締結されることが發表された。條約は二十三日調印されたが、この獨ソの百八十八度轉廻は、英佛の立場に大きな打撃を與へたものであつた。即ちこの獨ソ提携によつて、英、佛、ソ三國交渉は粉砕され、イギリスの計畫するところのドイツ包圍政策はその一角が崩壊したのである。

こゝに於て事態は急轉し、二十三日から行はれた英獨の最後の交渉も遂に妥協を見るに至らず、また、米國大統領を初め、ローマ法王、ベルギー皇帝及びオランダ女皇等の平和勸告も、ムッソリーニ伊首相の平和工作もグラデーニ佛首相の妥協交渉も、遂にこの危機を回避する力なく、ヒトラー總統は九月一日を以てポーランド進軍を命じたのであつた。

かくて、英佛はドイツに對してポーランド進軍中止を要求する最後通牒を送り、ドイツがこれを拒絶するや、三日を以て英佛共にドイツに對して戦争状態を宣言し、こゝに第二次大戦の幕が切つて落されたのである。

ポーランドに進軍したドイツ軍は破竹の勢ひを以てポーランド軍を席巻し、一方、十七日進駐を開始したソ聯軍と相呼應して、全ポーランド領を征服し、二十八日の條約を以てポーランドは獨ソ間に分割されたのであった。よつて、ヒトラー總統は十月六日、英佛に對して休戦を提議したのであつたが、英佛側が飽までもヒトラー主義打倒を強調し、戦争續行する旨を宣言して、ドイツの休戦提議を拒絶したので、戦争はいよいよ深刻なる英獨の封鎖戦を演出するに至つた。

ソ聯のバルチック進出

ドイツのポーランド進軍の機会に乗じてポーランド分割に乗り出したソ聯軍は、さらにその餘勢を驅つて、バルチックの制覇を進め、エストニア、ラトヴィア及びリスマニアに對して相互援助條約の締結、並びに軍事的基地の設置等を要求したのであつたが、エストニアとは九月二十九日、ラトヴィアとは十月五日、リスマニアとは同十日、いづれも條約の調印を行ひ、この三國をその勢力

下に收めた。

次いで十月十二日、フィンランド代表一行をモスコウに招いて上記三國に對すると同様な交渉を進めたが、この交渉は安堵を見るに至らず、十月二十六日、ソ芬國境に於ける衝突に發端し、二十九日にはソ聯軍はフィンランド領に進軍を開始するに至つたのである。

このソ聯のフィンランド進軍に對して、英佛は勿論米國を初め中南米諸國等も、ソ聯のフィンランド侵略を非難し、十二月三日、フィンランドが國際聯盟に提訴するや、アルゼンティンによつてソ聯除名の要求が聯盟に提示されたのであつた。かくて聯盟は、先づソ聯に對してフィンランド攻撃を即時中止すべきことを勧告したが、ソ聯がこれを拒絶するや、十四日の總會に於て、遂にソ聯の除名を決議したのであつた。

遂に長期戦と化する

また、これより先、ドイツは十一月月上旬を以て、英國本土總攻撃を敢行するため、オランダに侵入すべしと傳

へられたが、十一月七日、オランダ及びベルギー兩國元首は英獨佛三ヶ國に對して和平調停の意向を提示したのであつた。しかし英佛側はこの提議を受諾する回答を發したのに止まり、ドイツ側がこれに應じなかつたので具體化するに至らなかつた。その後、一時重大化を傳へられたドイツのオランダ進入は中止されたと報ぜられてゐる。

かくの如く西部戦線は、依然膠着状態を續けてゐるが、一方、英獨の封鎖戦或ひは通商破壊戦は日を追ふて深刻となり、多數の中立國の船舶がその犠牲となつて、拿捕されまたは撃沈された。わが照國丸も十一月二十一日、英國東海岸沖に於て爆沈したのである。

英佛兩國政府は、ドイツ側潜水艦の商船攻撃に對する報復手段として、ドイツの輸出貨物の一切を拿捕することを決意し、十一月二十八日を以て公布し、十二月五日から實施したのである。

これによつて、英獨の經濟戦は一層深刻となり、同時に中立諸國もその渦中に巻き込まれる危険が非常に増大し、國際關係は一段と複雑を加ふるに至つた。

また、ソ聯はフィンランド攻略を終れば銚をバルカンに轉じて、豫ねての計畫であるルーマニア進入を行ふものと見られて居り、ためにバルカンの情勢は非常な不安に陥りつゝある。

即ちバルカンに於てはドイツのルーマニア乃至トルコ方面への工作と並んで、ソ聯の黒海政策、或ひは汎スラヴ政策が進められ、十二月に至つてソ聯とブルガリアとの間に航空協定の締結を見るに至る等その進出目ざましきものがあり、またこれに對してイタリヤの中立プロック工作があるが、英佛も十月十九日、大戦前よりの懸案であつた英佛土の相互援助條約の調印以來、獨ソの攻勢を阻止すべく、非常な努力を試みて居り、これ等列強の工作が錯綜せるバルカンの情勢は大戦の歸趨を決定するものとして重大視されてゐる。

アメリカの態度

今次の大戦に直接間接に重大な役割を務めてゐるアメリカは、既に十四年初め、第七十六議會に對する大統領の

教書に於て、歐洲大戦勃發近しとして軍備の大擴充並びに中立法修正等が示唆されたのであり、早くも大戦に處する態度が重大問題となつてゐた。

かくて中立法の修正問題は七月に互つて論議されたのであつたが、遂に七月十一日、上院に於て一切の審議を次年一月の議會まで延期することが決議され、歐洲大戦勃發近しとのルーズヴェルト政府の主張は孤立論者によつて否定されたのであつた。

然るに九月、遂に大戦の勃發を見るや、アメリカ政府は五日を以て中立を宣言すると共に中立法を發動せしめたのであつたが、一方直ちに中立法修正のために特別議會を召集した。よつて新中立法は十一月三日議會を通過し四日を以て實施され、自働的禁輸條項は廢止され、現金拂自國船主義は復活されて、こゝにアメリカの英佛側援助の體制が整へられたのであつた。

さらに全米州諸國の大戦に對する共同の措置を協議するために、前年のリマに於ける汎米會議の決定に基づき、九月二十三日よりパナマに於て全米州二十ヶ國の

外相會議が開催され、全米州沿岸の水域約三百哩に互る海上に於ける交戰國の戰爭行為を排除することを決議し、なほ、各國の戰時下に於ける財政經濟問題を協議するために、ワシントンに財政經濟委員會を設置することを決定したのであつた。

このパナマ會議に於ける水域三百哩内に於ける戰爭行為の禁止に對しては、英佛側を初め各方面に於ても相當の異議があつた模様であつたが、十一月十三日ウルグアイ沖に於て行はれた英獨海戰並びに獨艦グラブ・シムズ・I號の自爆事件に對して、米洲側はパナマ宣言の遂成としてこれを問題視して居るのであり、その成行が注目されてゐる。

支那事變と帝國の外交

第三年を迎へた支那事變は、わが國に於て二月五日、平沼内閣の成立を迎へて愈々新東亞建設の段階に入つたのであつた。

しかし、これに伴つて第三國との關係は頗る複雑となり、前年末よりの在支權益に關する問題は相當深刻な發

展を示し、恰も、一月以來天津、上海、厦門等の各租界に於ける抗日テロ事件の悪化は、遂に五月十二日、厦門にわが陸戰隊の上陸を見るに至り、六月十四日を以て天津租界の封鎖が斷行さるゝに至つた。

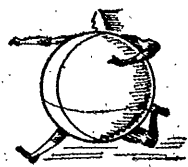
かくて七月十五日より東京に於て日英會談が開かれたのであつたが、この會談は遂に完全なる妥結に至らずして月末に至つて決裂したのであつたが、しかも、二十六日、米國政府は突如として日米通商條約の廢棄を通告して來たのであつた。

然るに、一方歐洲に於ける情勢は悪化の一途を辿り、その情勢は頗る複雑を極めてゐた。こゝに於て豫ねての問題であつた防共樞軸の強化も、八月二十三日、獨ソ不侵略條約が成立するに及んで白紙に還元するの已むなきに至り、ために平沼内閣の辭職となり、八月三十日阿部内閣の成立を見たのである。

しかも、九月三日、英佛の對獨宣戰を見るや、四日、政府は歐洲大戦に介入せず専ら支那事變の解決に邁進する旨を中外に聲明して帝國の立場を明らかにしたのであつた。

なほ、一方日ソ關係に於ては、前年よりの漁業交渉は頗る紛糾し、やうやくにして四月二日に至つて妥結を見ないのであつた。然るに六月月上旬よりノモンハンに於けるソ蒙兵の越境事件が重大化し、遂に七月、八月に互つて日ソ間に大規模なる戰鬪が開始されるに至り、事態は極めて重大化した。やうやくにして九月十五日、日ソ間に停戰協定の成立を見、引續き日ソ滿蒙間に國境確定に關する交渉が進められてゐる。

なほ、支那に於ては汪精衛を中心とする新中央政府の誕生が着々として進められつゝあり、これに伴つて第三國との國交整調の機運が動き、遂に決裂した日英會談も再開されんとする事情にあり、また米國との間に於ても通商條約問題を繞つて微妙な動きを示してゐるのであるが、恰も、十二月十八日野村外相は米大使との會談に於て、豫ねて英米側の要望してゐた揚子江並びに珠江の開放を近き將來に於て實現すべき旨を言明されたのであつたが、かくして國交整調問題もやうやく本格的な進行を示しつゝある。



鐵道貨物輸送の實情

鐵道省

もの云はぬ貨物の運送

新聞や雑誌などで、若し鐵道の問題になるとすれば、汽車が混み過ぎるとか、乗客券が買へないとか、係員が不親切で困るとか、殆んどすべて、旅客運送についての不平なり、注文なりに限られてゐる感がある。鐵道運送の兩翼をなす貨物運送の仕事には凡そ觸れられた例がないと云つてよい。

國有鐵道では年一億數千萬圓といふ莫大な貨物を運んでゐる。世間から一向問題にされない所から見れば、事鐵道の貨物運送に關する限り、全く理想通りに行はれて

ゐるからである、とも考へられようが、なかくどうして實際は問題がザラにあるのである。要するに世間で問題にならないのは國民一般の貨物運送の知識、關心の程度が足りないからであつて、貨物はもの云はず、時局柄かくも重大な貨物運送の仕事が、世人からは一向に顧みられないものと思はれる。國民一般の關心、協力のない所、そこに貨物運送の仕事がうまく行はず、その進歩、發達を阻害される因となりはしないかといふことを恐れる。一億數千萬圓の貨物、殊に最近激増しつゝあるこれ等の貨物が、常に圓滿に運ばれ、完全に目的地へ到達するかなが、如何に重大問題であるかは明らか

であらう。何をどれたけ運んだか

鐵道で運ぶ種々の重要貨物が年々どういふ増減率を示してゐるか、これだけを見ても我が國重要産業の消長振りがはつきり窺はれる。詳しく紹介することは時局柄遠慮せねばならぬが、極く差支へない限度で卑近な品物を二、三捉へて話のいとぐちとしたらう。

今「少しは文句を云つて貰ひたい」位に書いたが、大荷主、その他公共團體等から最近、殊に物の不足の問題を鐵道輸送力の不足に結びつけて、キツイお叱言を頂戴するのは決して珍らしくない。例へば肥料が今年どうしたのか、大變出遅れた。直ぐ鐵道の輸送力が足りないためだといはれる。金銀の増産に力を入ると、また必ず鐵道の貨車不足が叫ばれる。正にその通り、各方面に多大の御迷惑をかけてゐることは十分想像される。この點いたく責任を感じると同時に、兎に角非常に不足勝ちな鐵道輸送力を以てして、これだけの仕事をして来たといふこと

を、現在怒濤の如く押しかけて來る貨物を送り捌くために日夜苦心慘愴してゐる二十數萬の國鐵従業員、乃至は國鐵従業員に劣らぬ努力苦闘を續けてゐる小運送従業員のために、是非共一般に報告する義務があると思ふ。肥料や金銀の重要なことは勿論であつて、誰から云はれなくとも之が輸送の完璧を圖るべく努力するのは當然である。今年度に入つてから前年同期に比べてどれだけ餘計に送つたかといふと、肥料殊に人造肥料については上半期だけで三割六分四厘、金銀、銀もまた三割四分増送してゐる。現在の不足せる運送能力を以てして先づ成績は上々の部であるとも云へると思ふ。次に木材の話であるが、全國平均ではその積え方が對前年二割何分に過ぎない。ところがその到着が主として大都市の特定驛に集中されるので、これ等の驛の積え方は實にもものすごい。例へば東京市内又は大阪市内各驛着の如き、車變前に比べて十何割乃至二十割も増加してゐる。しかもこれは、各驛とも木材の到着使用車の割當制限を行つてゐて、かうなのである。何しろ木材のやうな

あゝいふ重いあら物は取卸荷役が容易な業でない。おまけに一方また荷主側で、船又は筏、人夫の不足、或ひは貯木場が一ぱいになつてゐる等のために、木材の引取りがうまく行かぬ。これがためこれ等の各弊で作業上如何に困難を感じてゐるかは大方想像がつくことと思はれる。然らばなぜこんなに鐵道輸送の木材が急に殖えたかその原因は、事變前までは大量の外洋材が海外から我が國へ入つて来た。それが最近社絶した木材の供給は専ら内地材の伐採に依存せられることとなり、全部鐵道輸送に轉嫁されたためである。

最近貨物の動きについて異常な變化を起してゐるものには、この木材のやうに、政府の政策が新らしく變つたと共に基因するものが多い。肥料の出荷期が遅れたとか、金礦が急増したのもみな同様であるが、その他これに類するものが数知れずある。

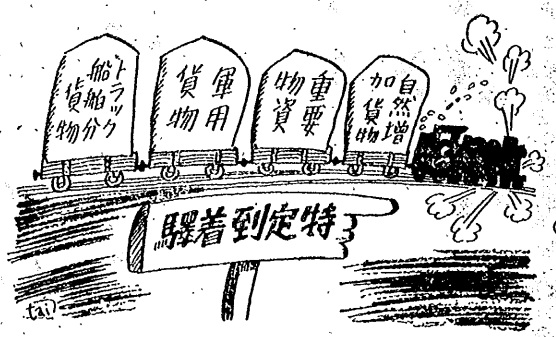
最近新聞紙などで問題になつてゐる新米の出廻りに伴ふ買上米の輸送についても、何しろ北陸、信越、東北地方は元來輸送力の非常に細い所である上に、最近積雪さ

へ見て、二層輸送の困難を感じてゐる。そこを、新米の出廻つて以來、かなり無理をして輸送手配を行ひ、そして相當多量に消費地へ送つた積りであるが、送つても送つても、まだ足りないといふ報告である。大いに責任は感ずるが、それと共に特に米の輸送は、鐵道だけの力では完全に解決されない、どうしても國民一般、殊に關係諸機關の理解ある協力がなければ十分に目的を達し得ないことを知つていたゞきたいのである。

事變以來激増した鐵道貨物

そこで、一體國有鐵道ともあらうものが、このやうな貨物の増加を見越して、なぜ十分その準備を豫めしめて置かなかつたか、といふ疑問が當然起ることと思ふ。まことに尤な疑問である。その責が絶対にない等とは毛頭思はないが、兎に角事實をありのままに一通り述べてみることにしたい。

先づ第一に、今次の事變以來鐵道の貨物運送の上にとんな變化が齎されてゐるかといふに、それは實に驚く



べきものがある。例へば、(イ)毎年々々殖えて来る一般自然増加の貨物の外に、(ロ)政府のいはゆる生産力擴充重要物資の運送、(ハ)巨大なる軍用貨物の運送を引受けて、もうこれで充分なのに、(ニ)おまけに従來船舶、トラック等によつて運ばれてゐた海陸の貨物が、軍の徴用に基づく供給不足、又はガソリン、重油等の規正で動かなくなつたり、ホ、或ひはこれ等の機關の運賃が高騰して、鐵道の方が斷然安くなつた等のために、鐵道の方へ殺到したのである。しかもその急増した貨物が、特定の輸送線區或ひは到着驛だけに集中して来るために

一層輸送、取扱上の困難を加重されてゐるといふのが、正しく今日鐵道の直面してゐる現状である。世間で足りない、足りない、といはれる物資が、鐵道の停車場だけには山と積まれて殺到してゐるといふ奇現象である。

ギリ／＼一杯の輸送力

第二に、わが國有鐵道は能率のいゝことと、正確なことを、これまで天下に誇つてきた。まことに結構な話ではあるが、然し、少し観点を變へていへば、物的設備に餘裕がないから、仕方なしに貧乏世帯のやりくりをうまくやつて来たのだ、といふことになる。わが國の鐵道が、歐米先進國の鐵道にくらべて、その力からいつて、如何にギリギリ一ぱいの仕事をしてゐるか、ホンの一例だけを述べると、例へば貨車について日本では各荷主に許容された貨車の積卸時間がこれまで六時間であつた。そして、その時間中に貨物の積卸が出来なかつた荷主に對しては、貨車留置料といつて一種の罰金のやうなものを取つてゐる。近頃はこの罰金を、貨車が非常に足りないから、平素

の三倍まで加重して取ることになつてゐる。しかもこの六時間を、來年の二月から更に四時間に短縮しようとした。ところがイギリスなどは過ぐる一九一七年の暮、前次の大戦の真最中に、貨車が非常に不足したと云つてこの留置時間を二十四時間に短縮する英断を敢行した。それでもなほ例外扱として引込線だとか、港灣地帯の積卸は四十八時間までいふことになつてゐる。餘り自慢にもならぬ話であるが、萬事がこの調子である。今それを急に殖やさうと思つても金がない、物が足りない、製作工場の能力がこれに伴はない。第一そんなに一度に車を殖やせば、これを動かす線路の方で參つてしまふ。

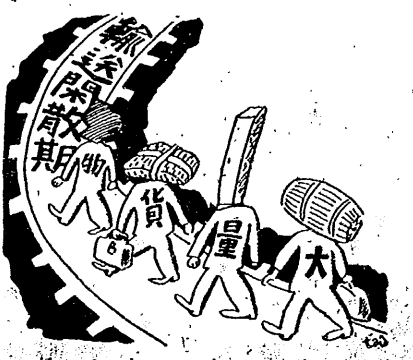
この勢力不足はあらゆる産業の共通の悩みである。運送店だけが如何に對策を講じてみてもその埒外にあり得るわけがない。おまけに、トラック、荷馬車が足りない、ガソリンが十分手に入らぬ、となると素手では競争が出来ないやうに、自然能率も落ちる。しかし運送店も、苦しい中を非常にふん張つて、ギリ／＼一はいいといふところまで仕事をしてゐる。この運送店が參つたら鐵道は完全に機能を停止するのである。この意味で、この運送店は鐵道貨物運送の死命を制してゐると云つてよく、これは何としても行詰らせないやうにしなければならぬ。

鐵道統制の主眼は増送

この統制といふ言葉は頗る不評判である。統制の衝に當る者としては十分これに耳を傾け、改むべきは速かに改めて、かゝる非難や、由つて來る不安等を一掃する必要がある。然し鐵道も現在及び今後の貨物輸送については、いや應なしに或る程度その統制といふ趣旨を、どうしても織込まなければならなくなつて來たのである。

その理由は、一般荷主からの貨物運送申込に對して、現在の國有鐵道の輸送能力が甚だしく足りない。それを出來るだけ足りるやうにする、或ひは不急且つ重要でないものを抑へて、急且つ緊要なものを先に送る必要が切實に感ぜられて來たからである。

從來この統制といふ言葉は規正、調節、制當制限など、専ら消極的な監督の方面に使はれてゐるやうである。しかし鐵道の行はうとする統制はさうでなくて、第一に増送本位、即ち鐵道と荷主大衆と一致協力の下に、如何にすれば現在の輸送施設の活用を圖つて、その最大輸送能力を發揮出來るか、この點に主眼を置くことにしてゐるのである。



この現在の輸送施設の活用を圖るためには、鐵道だけの力、努力だけではどうしてもその目的を達せられない。それにはどうしても荷主大衆の理解ある協力に待たなければならぬ。

この荷主の協力を求める——全體としての増送といふ大目的を達するために、個々の荷主大衆が、多少の不利不便を忍んでも、進んで鐵道の輸送方針を理解し、この方針に順應して荷物を出し、又はこれを引取るやうにして貰ふことをお願いしたのである。

その具體的な例を挙げれば、石炭、礦物、肥料、木材、米等といふやうな、いはゆる大量貨物は、年間を通じて平均に出貨して貰ふ、いや出來るならば夏、冬等の鐵道輸送の

閉散期にウシと送り越しをする位にして頂きたい。生産力擴充重要物資だといふので無計畫にドツと一時に持込まれては、よしそれが假りに金鑛のやうな大事な物でもつても、その要求には應じ兼ねるのである。

それから貨車に有蓋、無蓋、或ひは大小様々の種類のもがある。今日なほ荷主——運送業者によつては極端な程使用貨車の撰り好みをされる。理想をいへばその驛にあり合せの車を出來るだけ使つて貰ふ、それが一番鐵道から見て貨車を有効に使ふ方法なのである。無論貨物の種類によつて一概には申し兼ねるけれども、荷主の運賃その他の多少のソロバン玉よりも、貴重な貨車を活かして使ふか使はぬかといふことが、大局的に見てもつと重要な問題なのである。また貨車の積卸、或ひは引取を迅速にやつていただきたい。年末差迫つてやたらに贈答品を送りつける等のことも餘り感心出來ない。

なほ、これまで鐵道のことといへば、運賃のことばかり問題にする傾向があるが、これは我々から見れば全く素人論とも云ふべきであつて、それよりも出るだけの

物が全部圓滑に動くかどうかの問題の方が、もつと重要なのである。物が動くことが出來て後初めて、運賃の方も安からう、良からうといふ順序になるのである。

輸送統制と優先輸送

第二に、如何に鐵道と荷主、運送業者と一緒になつて計畫的に増送方を努力してみても、尙ほ且つ時と場所によつて甚だしく輸送力が足りなくなることがあり得ると思ふ。その時初めてどの貨物を先に輸送し、また後にすべきかについて攻究する段取りに入る。そして一部不急の貨物に輸送の抑制を行ふといふことが問題になつてくる。

勿論この場合であつても貨物の輸送、殊に貨車の配給は、一應從來のやうに貨物の運送申込順序に依るべきことは當然であるが、しかしさういふやり方だけでは今日の事態は到底救済出來ない。必要に應じて屢々運送申込される貨物の數量、用途、性質、着荷主のストックの關係、行先等まで諸般の内の事情を考慮に入れて、たとへ運送申込順序から云つて後であつても、先に輸送手配を講ずる

ことがあるのである。その反對の例としては或る品目を限定して輸送の割當制限を行ふ、乃至は不急なことが明らかな貨物については、或る期間に互り輸送を全然抑制して出させないやうにすることも、あり得るのである。

この場合われわれの常に注意してゐることは、いはゆる重要物資だから先にするとか、乃至は民需だから抑へてもいいとかいふやうないはゆる概念的な、十把一からげな扱ひによらないで、充分個々の貨物について、今述べたやうなその内の事情に立入つて吟味してかゝり、圓滿な經濟常識を働かして、輕重先後の別を誤らないやうに、極力現場係員を指導し訓育してゐるのである。たとへ民需と雖も簡単に抑へていい、などと云つて片付け得るものでないことは、充分承知してゐるのである。

米輸送の話

第三に、輸送統制に關して最近に於ける典型的な實例として、この十二月十三日を期してやり出した米の輸送について御紹介したい。今日米が生産各地に於て、將又消費

大都市に於て、如何に大きな問題となつてゐるかといふことは、餘りにも明らかであるからこゝには觸れない。たゞ米の鐵道輸送だけについて限局して語りたい。そこで今日鐵道の輸送力が如何に足りないからと云つても、さうと決れば全日本の米をば、極めて短日月の中に東京や大阪等の消費大都市に集中して、米の山を築く位のことには極めて易々たる仕事である。しかしその時、困ることには米以外の他の貨物輸送が非常に大きな影響を受けるのである。殊に十二月といへば年末輸送の最繁忙季である。それこそ、その影響の波及するところ想像も及ばないものがあるであらう。

故に今度米の輸送について鐵道が内務、農林兩省の關係者と協議して採つた方策は、(イ)先づ六大都市の日々の消費量を想定して、その量だけの輸送は最少限度に必ず確保して缺かさず送り込まう、最少限度だからそれよりも多くはなつても決して少くはならぬといふこと、(ロ)一方生産縣を管轄する鐵道局に對しては、日々米の運送申込量から最少限度の發送量を、これ又鐵道局毎に

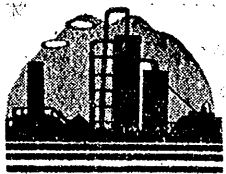
割當てる、それに對應して鐵道局はまた各運輸事務所毎に、また運輸事務所も各驛毎と同様の割當を行つて、所定量の發送の絕對責任を負はせる。それがためにはその責任を完全に果せるやうに計畫的に空貨車を廻してやるなり、輸送手配を講ずる必要も自然起つて來ること勿論である。(ハ)發送順序は各驛に割當てられた所定量の米だけは他の一般貨物に優先して貨車の配給を行ひ、米同志がぶつつかつた場合は政府の買上米、縣の轉米、民間買上米の發送順序とする。(ニ)糯米などは一般貨物の輸送と同様な扱ひに移し、之を除外する。(ホ)地域的に東西又は南北に交錯する輸送は極力避ける。こんなやうな米の輸送計畫を立てたのである。これは統制輸送又は計畫輸送の最も確たるものであらう。この方法に依つて定量、的確な輸送配給の目的を達する、又他の一般貨物の輸送に對する影響を最少限度に喰ひ止めることが出來ると思ふのである。

切に國民の協力をまつ

由來鐵道の貨物運送ほど組織の完備してゐるものは

ないと言つてもよい。立派なピラミッド型に出來てゐて、且つ専用の通信機關を持つてゐるから、今日の計畫が直ぐその通りに翌日の實行となつて現れ、しかもその實行の結果が、中央に於ける計畫者の机上に、詳細且つ精確な數字を以て即日締切り報告されるのである。今後米にしても、木炭にしても、乃至は商工省等の行ふあらゆる統制計畫の強化されるのに對應して、これ等の諸官廳と緊密なる聯繫を保ち、この立派な組織と輸送の的確性とを活用することは時局の鐵道に齎す大きな使命であると信じて疑はない。

最近に於ける鐵道貨物の動きについて、以上その大要を説明した。我々の仕事上行届かない所が多々有り、お詫びもしたく、又足りない所を教へて戴くと共に、今後是非とも、鐵道輸送の現狀について國民一般の一層の理解を願ひ、これをもつと活かして使ふべく、進んでその理解ある協力、援助を切に希つて已まない。



北樺太利權企業の現況

商工省燃料局

◇北樺太利權企業と日ソ國交との關係

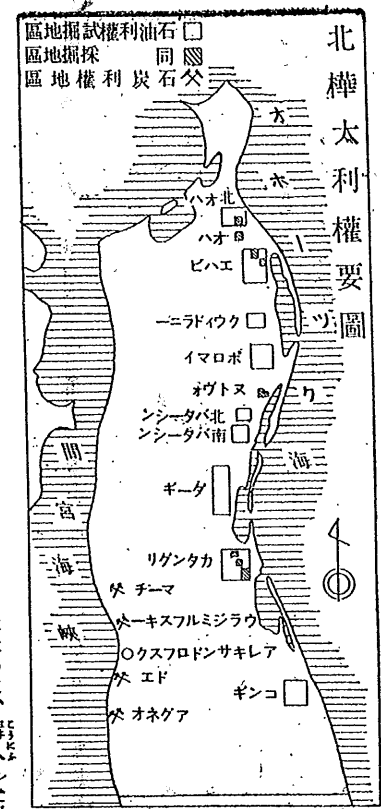
北樺太はすでに冬期凍結期に入らうとし、もはや内地との交通は一切杜絶し、零下數十度に達する嚴寒裡に越冬することとなつた。わが北樺太利權企業は、かゝる地理的惡條件に制約され、しかも社會制度を異にするソ聯の嚴格な法規の桎梏の下に、實に人知れぬ苦難と闘ひつゝ、わが北方權益の維持に當つてゐるのであるが、企業の榮枯盛衰は何と言つても日ソ兩國の國交關係によつて全的に支配されるのを免れない。従つて最近數年間の日ソ關係を反映し、今や北樺太利權企業は危機に直面するに至つたのである。

◇昨年度までの壓迫狀況

北樺太利權は實に大正九年の尼港事件の代償として、大正十四年の北京條約によつてソ聯に承認させた權益であり、その中東海岸にある石油利權は、最近の調査によれば埋藏量三億噸以上に達するといはれ、又西海岸にある石炭利權は、炭質が製鐵用燐炭の原料炭として他に類例のないほど優秀なものであり、共に極めて重要な資源であるため、政府でも重大決意を以て本利權の擁護に萬全の努力を爲して來たのである。

しかるに今次支那事變の勃發以來、日ソ關係は惡化の一途を辿つたため、ソ聯の利權企業に對する壓迫は年と共に

苛酷の度を加へ、先づ石炭利権の北樺太鑛業株式會社は、昭和十二年秋に至り、坑道の維持に必要な少数従業員を現地に残留させただけで、遂に引揚げを餘儀なくさせられ、探炭は全く不能に陥つてしまつた。この結果従來毎年二十萬噸程度の石炭を内地に供給して來たのが、送炭全く杜絶



壓迫に遭ひ設立不能に陥つた。そればかりでなく、その利権地域アグネオは、帝國の嚴重な抗議にも拘らずソ聯は利権の取消さへ通告し來り、最近では國營企業で開發に着手したやうである。

次に石油利権の北樺太石油株式會社は、昭和十三年から五ヶ年間に、北樺太東海岸一千平方露里に亘る廣大な地域に、三十五井の試掘を爲すべく、いはゆる試掘五ヶ年計畫を立て、ソ聯との細目協定も了へ、政府の積極的財政援助を得、金一千八百八十四萬七千圓、政府元利支拂保証金千三百萬圓の下にいよいよ實行に着手せんとした際、たまたま日ソ關係の悪化に遭ひ其の計畫は全く駄目になつたに遭ひ其の計畫は徒らに腐蝕し、其の損害だけでも相當の巨額に達してゐる。

してしまつたのである。更に他の石炭利権者である坂井組會は、利権獲得以來未だ開發には着手してゐなかつたが、内地炭界が好況なので開發に着手しようとして、政府から北樺太炭鑛株式會社の設立免許を受けたが、これ亦ソ聯の不法

探油作業はオハとカタンダリで辛うじて繼續して來たが、最も良質の原油を産する新開發油田エハビの探油は、

ソ聯の妨害で探掘着手不能となり、總探油量は昭和十二年以降急激な減少を示してゐる。

◆本年に入つての不法壓迫

かかる状態で昭和十四年度を迎へた利権企業者は、悲壯な決意を以てソ聯の不法壓迫に抗し、積極的に事業を遂行しようとして、政府でも外交交渉によつて極力ソ聯の不法の排除に努めると共に、帝國議會の協賛を経て北樺太石油株式會社に對し六百十八萬四千圓（内昭和十三年度分三百七十七萬四千圓、昭和十四年度分三百七十七萬四千圓）を限度とし利権確保補助金を交付し、ソ聯の不法壓迫に基づく會社の損失を填補することとし、利権の確保について周到な準備を以て臨んだのであつた。しかるに年初來ソ聯の壓迫は少しも緩和されず、ノモンハン事件の發生を見るに及んで其の壓迫は極度に達した。即ち北樺太石油株式會社の労働者團體契約の改訂交渉に當つては、昭和十三年度に労働賃銀の十五パーセント引上を行つたのに、更に一舉四十パーセントの大引上

上を要求し、その外事實上實行不可能な福利施設の建設引渡を要求する等、種々不當な要求を提出、これを強硬に主張して譲らないのである。爲めに交渉は徒らに遷延し、半歳以上に亙り回を重ねること六十有餘回に達した。八月に入つて漸く多少の譲歩を示し、わが方も大局の見地からこれを承認し、團體契約を妥結させ辛うじて無契約状態の出現を回避することが出来たのであつた。

しかしソ聯は利権企業の遂行に絶對的に必要な労働力の現地送込を、前記團體契約の未締結を口實として利権契約を無視して容易に許可せず、北樺太石油株式會社は露人労働者二千五十名、邦人労働者八百六十名、北樺太鑛業株式會社は露人労働者九百名、邦人労働者四百名の申込を爲したが、前者に對しては邦人三百名、後者に對しては邦人百五十名の現地送込を八月に入り漸く許可し、露人労働者の提供は全然拒否するといふ有様であつた。兩會社はとも角九月に入り前記許可人員の現地送込を完了したのであるが、ソ聯は十月十五日限り前記送込人員の送還を強要するといふ執拗な壓迫をくりかへしてゐるのである。これが爲め

兩會社とも極端な労働力の不足に陥り、北樺太石油株式會社では本年度も試掘作業の全面的中止は勿論、永年幸井開發に當つたカタンダリ及びユハビの兩鑛場は之を閉鎖し、僅かにオハ鑛場だけを最後の足溜として利権の維持に當るより仕方がなくなつた。また北樺太鑛業株式會社でも全く事志と違ひ、採炭送炭等の積極的專業は一切断念し僅かに坑内及び坑木山の整理等を爲すに止まつたのである。

かやうに労働力を極端に制限し、兩會社が其の不足に困窮してゐる状態を察知するソ聯は、更にソ聯法規に基づき、尤大な各種の作業實施を嚴命し來り、期限内に實施不能に陥るや、その責は全くソ聯側に在るにも拘らず、會社責任者を威嚇し、法規違反を理由として會社設備の使用を禁止するなど實に言語道斷の擧に出たのである。その他ソ聯の不法壓迫は利権企業に必要な作業用品及び日常生活必需品の送込に關しても極端な制限を加へ、これがため會社は困窮し、労働者に配給すべき酒保品を制限するの已むなきに到つたが、ソ聯労働組合は北樺太鑛業株式會社に對し

ては三十七萬圓、北樺太石油株式會社に對しては二十六萬圓といふ巨額の損害賠償請求の訴訟を提起し、ソ聯裁判所は會社側の申立には一切耳を藉さず、強制執行の舉に出ようとさへした。幸ひ本件は政府の強硬な外交交渉によつて漸く阻止し、事なきを得たのである。

◇危機に直面する利権企業の現状

第二次歐洲大戰の勃發、日ソ停戰協定の成立等、國際情勢に多大の變化を見るに及んでも、北樺太利権問題に關する限りソ聯の態度には未だ些かの變更も認められず、諸種の懸案解決に對しては徒らに遷延を事としてゐるため事態の好轉を見るに至らない。このソ聯の遷延態度に禍ひされ、兩會社とも未決問題山積し、今なほ終航船の内地引揚げ不能の状態にあり、オホーツク海の逆巻く激浪の中に決死的危険を冒し、會社船舶は現地沖に碇泊してゐるのである。現にこれがため北樺太石油株式會社の備船怡山丸は先日の暴風雨に遭難し、乗組員の生命の安全さへ氣づかはれてゐる現状であり、更に又十一月下旬に至り突如兩會社の幹部

(この目録は取はつしの上適宜御利用下さい)

昭和十四年下半期總目録

(頁一六四)

七月十二月

實 動 局	支那事變從軍記章の御制定	一四六
企 業 院	價格等の引上禁止について	一四四
	労働動員計畫について	一四五
内 閣 情 報 部	奉天二周年と精勵の新段階	一四三
	忠靈顯彰について	一四三
	中國國民黨六次大會	一五一
	歐洲戦争と我が經濟の動向	一五二
	ポーランドの軍備	一五二
	歐洲戦争と帝國の態度	一五二
	蒙古聯合自治政府	一五二
	歐洲戦局日誌	一五二
	ノモンハン事件の停戰協定成立	一五三
	銃後美談集	一五四
	物價停止は如何に行はれるか(座談會)	一五六
	歐洲戦争と宣傳戰	一五七
	經濟戰強運動について	一六三
	紀元二千六百年元旦の興亞奉公日を迎へる心構へ	一六七

大 陸 建 設 と 技 術 協 力	支那事變二周年を迎へて(平沼内閣總理大臣談)	一四三
	火星は近づく	一四五
	興亞奉公日設定ニ關スル内閣告諭	一四八
	阿部内閣總理大臣談	一五一
	阿部内閣總理大臣放送	一五一
	新内閣の政綱	一五二
	地方長官會 阿部内閣總理大臣訓示要旨	一五六
	大戦から大戦への歐洲(村川堅固)	一五七
	五氣壓の變態風洞出現	一五六
	最近公布の法令	一五六
宮 内 省	新嘗祭の御儀	一六一
外 務 省	事變と興亞外交	一四二
	汕頭を語る	一四三
	ダンチと問題	一四四
	北樺太利権に對する暴壓	一四五
	日英東京會談とその反響	一四六
	日米通商航海條約廢棄通告問題	一四六
	日獨貿易協定假調印	一四六
	蘇俄機管下の船狀	一四七
	日米通商條約廢棄問題	一四八

- ▽メキシコを繞る石油問題.....一四九
- ▽獨ノ關係の變遷.....一五〇
- ▽英佛の官職と各國の動き.....一五二
- ▽英佛獨の戰時體制.....一五三
- ▽ソ聯軍のポーランド進駐.....一五四
- ▽タイ國の不良華僑彈壓.....一五五
- ▽鼓浪嶼問題の解決.....一五八
- ▽ソ聯のバルチック制覇.....一五八
- ▽トルコを繞る英佛ソ.....一五九
- ▽歐洲戰爭と印度の動向.....一六〇
- ▽米國中立法の修正.....一六一
- ▽オランダ、ベルギーの危機.....一六三
- ▽國共摩擦の現状.....一六三
- ▽英佛の獨貨拿捕令公布.....一六四
- ▽ソ芬紛争の經過.....一六六
- ▽昭和十四年の國際政局回顧と展望.....一六七
- ▽バルカンの情勢.....一六七

内 務 省

- ▽事變下の府縣會議員總選舉と肅正運動.....一五〇
- ▽歐洲諸國の防空計畫(上)(下).....一五三
- ▽映畫法の解説.....一五五
- ▽大政の意義.....一六七

大 蔵 省

- ▽百億貯蓄強調週聞を讀みる.....一四五
- ▽預金部資金の話.....一五一
- ▽爲替基準變更さる.....一五九

- ▽物價停止と供給.....一六〇
- ▽煙草の値上について.....一六三
- ▽經濟戰と金の動員.....一六四

陸 軍 省

- ▽抗日勢力の現況.....一四三
- ▽外蒙ソ聯機の擧げ.....一四二
- ▽魯南地區の掃蕩戰.....一四二
- ▽天津英租界問題の經緯.....一四三
- ▽外蒙ソ軍の附屬戰.....一四三
- ▽陸軍航空部隊の戰果.....一四三
- ▽游安作戦の經過.....一四五
- ▽滿蒙國境紛争問題.....一四六
- ▽新民會とは何か.....一四八
- ▽少年宣撫隊と婦女宣撫隊.....一四八
- ▽陸軍へ四千六百萬圓、高まる國防獻金熱.....一四九
- ▽獨佛國境の築城について.....一五二
- ▽滿洲治安の確立.....一五三
- ▽ノモンハン事件の終末.....一五四
- ▽湖南作戦の概況.....一五五
- ▽各地掃蕩戰の概況.....一五六
- ▽陸軍と結核預防.....一六二
- ▽南支北海方面の作戦.....一六三
- ▽南支方面の掃蕩戰.....一六六
- ▽敵の冬季攻勢.....一六七

海 軍 省

- ▽戦局の進展と海軍の行動.....一四二
- ▽汕頭攻略戰經過と温州、福州兩港封鎖作戦.....一四二

- ▽事變二年海軍の戰果.....一四三
- ▽事變下の我が聯合艦隊.....一四六
- ▽南支沿岸封鎖の強化.....一四六
- ▽上海戰一周年を迎へて.....一四七
- ▽海軍への獻金はどうか使はれてゐるか.....一四七
- ▽支那沿岸封鎖と法幣の關聯.....一四五
- ▽海軍航空部隊の活躍.....一五六
- ▽洞庭湖上海軍部隊の奮戰.....一五七
- ▽海軍へ寄せられた國民の赤誠.....一五八
- ▽北海に奮勇敵前上陸.....一六二
- ▽舞鶴鎮守府の開港.....一六三
- ▽潜水艦戰と防潜.....一六六
- ▽事變三年の海軍作戦.....一六七

司 法 省

- ▽何が「軍用資源秘密」か(上)(下).....一四六、一四七
- ▽現地寄稿特輯(前編より統後へ).....一六五
- ▽司法保護事業の指導統制.....一四三
- ▽司法保護精神と母性愛.....一五三
- ▽裁判所附設法廷の司法部職員ニ賜ハリタル勅語.....一六〇
- ▽時局と憲法精神.....一五九
- ▽天皇ノ名ニ於テ(尾佐竹猛).....一五九

文 部 省

- ▽興亞青年勸報報國隊について.....一四二
- ▽夏の學生生活.....一四五
- ▽中等學校入學者選抜方法の改正について.....一五七

- ▽事變と技術者養成.....一五八
- ▽學校教育と結核.....一六一
- ▽時局と家庭教育.....一六二
- ▽重要農林水産物の増産計畫.....一四八
- ▽世界捕鯨戰の話.....一四八
- ▽歐洲大戰と食糧政策.....一四九
- ▽時局と水産業.....一五〇
- ▽農山漁村の統後問題.....一五〇
- ▽引上停止の除外品.....一五九
- ▽戦時食糧充實運動.....一六二
- ▽小作料の統制について.....一六六

商 工 省

- ▽時局と發明.....一五一
- ▽ガスの消費節約.....一五三
- ▽應召商工業者の問題.....一五四
- ▽石炭販賣取締規則について.....一五五
- ▽最近の貿易趨勢と圓プロック輸出承認制度.....一五八
- ▽九一八價格とは何か.....一五九
- ▽臨時日本標準規格の話.....一六三
- ▽木造建築物建築統制規則について.....一六四
- ▽工業小組合制度とは何か.....一六六
- ▽北樺太利權企業の現況.....一六七
- ▽鐵鋼(戦時統制物資講座一).....一六二
- ▽非鐵金屬(戦時統制物資講座二).....一六三
- ▽石炭(戦時統制物資講座三).....一六三

- ▽石油(臨時統制物資講座四).....一六四
- ▽鐵道(臨時統制物資講座五).....一六六
- 遷 賃 省
- ▽民間航空の現状と將來.....一四四
- ▽五十億を突破した郵便貯金.....一四五
- ▽時局下の海運.....一四九
- ▽現在の電力の供給制限.....一五三
- ▽電力の調整について.....一五八
- ▽國際放送宣傳戦は如何に戦はれつゝあるか.....一六〇
- ▽ラヂオビームの話.....一六一
- 鐵 道 省
- ▽鐵道貨物輸送の實情.....一六七
- 拓 務 省
- ▽滿洲移民と分村分郷計畫.....一四三
- ▽國境取締法の話.....一四五
- ▽滿洲開拓事業の展望.....一六〇
- ▽青少年義勇軍現地報告座談會.....一六七
- 厚 生 省
- ▽體力検査の話.....一四三
- ▽國民徵用令の實施に就いて.....一四四
- ▽軍事保護院の設置について.....一四四
- ▽時局と貸金統制.....一四五
- ▽夏と心身鍛練.....一四五
- ▽ドイツの青年宿所.....一四六
- ▽捨てよ結核國の汚名.....一四七
- ▽國立技能検査所とは.....一四七
- ▽團體郵便年金と定期年金の創設.....一四九
- ▽民族優生方策.....一五一
- ▽大日本體操の制定.....一五二
- ▽政府主催、新體操の下に開く明治神宮國民體育大會.....一五三
- ▽結核施設の全貌.....一五四
- ▽軍人遺族の援護事業.....一五四
- ▽歸還軍人の就職問題.....一五四
- ▽恩賜財團軍人援護會の二大事業について.....一五七
- ▽地代・家賃統制令解説.....一五九
- ▽結核絶滅の方途.....一六一
- ▽物價停止と貸金.....一六一
- ▽貸金臨時措置令の運用と解釋について.....一六一
- ▽勞務動員と勞務動態調査.....一六三
- ▽最近の住宅問題.....一六四
- ▽近視の豫防について.....一六四
- ▽國民體力管理制度.....一六六
- 朝鮮總督府
- ▽朝鮮産業の綜合開發計畫.....一五〇
- ▽朝鮮の國民精神總動員運動.....一五一
- 臺灣總督府
- ▽臺灣の精勵.....一六二
- 南洋 廳
- ▽亦變下の南洋群島.....一四九
- 北海道 廳
- ▽北海道の三大産産輸出品.....一四七

級社員に退去命令を發し、或ひは現地沖に到着した北樺太石油株式會社社員の入國を拒否する等、ソ聯の態度は實に不可解なものがある。萬一この退去命令などが強行されれば利權放棄の已むなき事態に立至る虞れさへあるのであつて、政府に於て嚴重交渉中であるがソ聯は例によつて遷延を事とし今なほ解決を見ない状態である。

以上のやうなソ聯の執拗極まる不法壓迫裡に終始した本年度利權會社の營業状態は勿論良からう筈がなく、特に北樺太石油株式會社の受けた打撃は、實に致命的であつて、三百十七萬七千圓の利權確保補助金を以てしても、到底本年度のソ聯の不法壓迫に基づく損失を填補することは不可能であり、株主配當などは望むべくもなく、利權企業は實に空前の危機に直面してゐるといはざるを得ない。

今後日ソ國交調整交渉の進展に伴ひ、本問題も漸次解決を圖り、採算的經營などは別としても、とも角企業の遂行は是非とも萬難を排し之を圖らなければならぬのであるが、樂觀は尙早であり現状に對する正しい認識の上に立ちソ聯の動向を注視しなければならぬ。



紀元二千六百年—蘇聯神宮
☆前線—の—春
上海 陸 隊
◇羽子雪を作る兵隊さん
鐵路のデパート愛路列車

定 價 二 十 錢

迎 年 祈 世

中央陸軍軍官訓練團の開校式
北 鮮 の 春 嚴 し—朝鮮の國境警備
天孫降臨の地日向高千穂の日の出
◇日向高千穂と美々津の濱
陣中に執るベンの音
(兵隊さんの陣中文藝)

★アメリカで慰問役を買つた水兵さん

みかんも季節の輸出品
◇元旦に迎へる興亞の春の日
今年こそは—(漫 畫)
セリフの兄さんブライオ、フィルム
▲大きなものが小さくなつて、小さいものが小さくなつたら
☆購。者。の。カ。メ。ラ

新 年 來 出
號 しま
が た



紀元二千六百年元旦の 興亞奉公日を迎へる心構へ

◇：師走の月は暮れ易く、もう年の瀬も追つてきた。今月の始めから全国一齊に開始された經濟戰、強調運動も、大詰の目前に控へて、白然的な展開を見せている。

明ければ昭和十五年の春だ。聖戰下第四年度の正月は、恰も光輝ある紀元二千六百年に相當してゐるばかりでなく、新年最初の興亞奉公日でもある。しかも興亞奉公日が制定されて初めて元旦である。かういふ譯で今度の元旦は、二重も三重もの深い意義を持つてゐる。この元旦を我々は何んな心構へで迎へたらよいだらうか。このことに就いては、既に去る九月二十八日官會議で「紀元二千六百年新年奉祝實施要綱」と「紀元二千六

年元旦の興亞奉公日實施上の注意」が決定してゐる。各地方では、この官會議の決定に基づいて地方々々特有の風俗習慣等を脱み合せ、それ／＼その地方の實情に適應した具體的實施計畫を立てて實踐に移すことになつてゐる。

この官會議決定事項の内容は、既に週報一五五號（九月四日、四十五日）で紹介されてゐるが、こゝで再びその内容に解説を加へて紹介しておきたいと思ふ。◇：元旦の朝は興亞奉公日實施項目中の早起勵行を強調するまでもなく、どこか家庭でも大抵早朝に起きられることと思ふ。恰も光輝ある紀元二千六百年の元旦の朝であるから、悠久なる國史の跡を偲んで、國の大精神を體認するため、屏録

を祝ふ前に先づ一家揃つて最寄の神社に参拜したい。清々しい元旦の社頭に類づいて皇國無窮の發展を祈念し、東亞新秩序建設に邁進する新たなる誓信を神明に誓ふのである。松飾その他新年恒例の諸事萬端は努めて簡素にするといい趣旨に則つて、朝の御難煮の膳もなるべく簡粗に済ますことも戦時下の心構へとして大切であらう。

◇：こゝで問題になるのはお屠蘇の問題である。興亞奉公日は戦場の勞苦を偲ぶ意味で、禁酒禁煙するといふことが、國民精神總動員中央聯盟の實行項目中に掲げられてゐるのである。従つて嚴密な意味ではお屠蘇もいけないことになるだらう。しかし屠蘇を祝ひ、お神酒を戴くことは、わが國古來の慣行であつて、單なる飲酒とは趣を異にするから、これまで禁止することは適當でない。といつても屠蘇やお神酒に名を藉りて、飲み放題に飲み廻り干鳥足でヨチ／＼歩く體は

戦時下國民の姿としては、大いに不適當極まるといふべきであらう。

◇：文物資不足の折から虚禮に互る年始の贈答は一切廢止し、新年恒例の回禮の贈答もお互にこの際思ひ切つて廢めることにしたい。その代り官公衙、學校、各種團體、銀行、會社、工場等は勿論のこと、市區町村に於ても、神社、學校、公會堂等適當な場所を、この日二千六百年奉祝の式典を行ふことになつてゐるから、この式場で新年の挨拶は簡単に済まされるわけである。またこの日午前九時は、國民奉祝の時間として定められてゐて、その時刻にはラヂオ、汽笛、サイレン、鐘等で合圖があり、その時各家庭その他の場所各人が、宮城を遙拜し、御聖徳を欽仰し奉ると共に、萬歳を奉唱して、一億國民、心を一にして聖壽の無窮を壽ぎ奉り、盡忠報國の精神を振ひ起し、皇運扶翼の赤誠を披瀝するわけである。外國に在住する日本人も在外公館、日本

人會等を中心に各地の實情に應じて、適當な時間に祝賀の式典を舉行して宮城を遙拜し聖壽の萬歳を奉唱することになつてゐる。

◇：今度のお正月には先程述べた通り、新年の回禮にも出ないし、他方から回禮に来る人もないわけなので、いつものお正月に比べて淋しいといへば淋しいが、しかし家内全部揃つて團樂すること、こよない楽しさであらう。戦地の兵隊さんに送る慰問袋を作るのもよいでせう。一家残らず筆を執つて第一線で賽いお正月を迎へてゐる兵隊さん達に、練後この頼母しい新春の模様を慰問文に載せて送るのも、興亞奉公日にふさはしい。練後國民のつとめであらう。この簡素ではあるが、しかし興亞第四年に處する全國民の意氣をこめた嚴肅なお正月こそは、東亞新秩序建設の大段階に飛躍する日本國民の大和魂の發露であるであらう。そして、すべての國民がこれを實行

し、しかもその節約によつて残した金で、皇紀二千六百年奉祝記念贈儀や、貯蓄債券を請求するならば、この千載一遇の興亞奉公日は、彌榮文行く日本の表徴として、最も輝かしく飾られることであらう。

— 内閣情報部 —

奉祝紀元二千六百年月曆（國民精神總動員中央聯盟編）
紀元二千六百年を迎へるに際し、奉祝の至誠を國民精神の昂揚に顯現せしめる一助として編纂せるもの、在來のカレンダーと異り國祭日と興亞奉公日に重點を置き、新意匠を加へてこの日を明瞭にし、その意義をも明記した。なほ、二千六百年の歴史に重要意義を示す官幣大社、別格官幣社の寫眞を掲げて神徳を記し更に毎月ふさはしき時局的寫眞と標語を配した。

（官費一冊二千錢、發行三萬冊を拂ひ込みは一般の市民に頒布する。東京市麹町區皇紀奉祝國民精神總動員中央聯盟、振替口座東京一四四七五五）

大祓の意義

内務省神社局

吾人の生活過程に於て、それが個人的にも社會的にも、知らず／＼の間に、幾多の罪過を犯し、又種々の汚穢に觸れることは避け難い。故に時折これらの罪穢を拂ひ去つて自己とその環境を淨化する必要がある。殊に我等日本人は清明心を尊び之に反する汚濁の念を厭ふことが甚だしから、時々この汚濁の集積から派生する罪穢を拂ひ去ることを工夫し修行して來たのである。これがいつの世からとも知れぬ昔から行はれ來つた祓、祓の習俗であり、小さな場合には一個人として、大きな場合は國家として、公に私にこれを行つたのであつた。その公であつて國家的な場合を、特に大祓といつたのである。

従つてこの大祓には、臨時の大祓もあれば、年々時を定めて行はれた恒例の大祓もある。後者が國の制度として確立したのが、即ち六月、十二月の二季の大祓であり、はや大寶令に規定され、朱雀門前の廣場を式場として、親

王以下在京の百官男女を會して行はれたので、これをまた百官の大祓とも稱したのであつた。

今日の宮中の大祓は、この二季の大祓を明治初年に復興されたものである。即ち古の朱雀門前の大祓であり、百官の大祓であるので、在京の各廳、勅、奏、判、任官の總代は勿論、皇族、王族、公族の總代も參集せしめらるゝのである。但しこの場合召し集へらるゝものは單に官廳といふ狭い範圍の人員を代表するのではなく、朝廷に仕へまつる天下の萬民を意味するものであることは、昔も今も變らない。かくてこの大祓は、過去の半年間に集積せる萬民全體の罪といふ穢といふ穢を根こそぎに除き去つて、清き明き御民われの本質を發揮顯現するところにその意義が存するのである。

尚ほ、この百官の大祓の儀に先つて、當日宮中に於ては、節折の御儀を執り行はせられる。この節折の御儀も、大祓

と同じく上代より宮中に行はせらるゝ御神事であるが、その御趣旨は、天皇陛下の大祓の御儀とも拜せられ、聖明にます。陛下がこの儀を親しく執り行はせ給ふことは、全く民のため世のためを憂念あらせられての御修行に外ならずと恐察し奉るのである。

さて今、宮中大祓式の御模様を洩れ承るに、祓所は神嘉殿の前庭を以て之に充てられ、先づ節折の御儀畢らせられて後、午後三時掌典長以下着床、次いで各廳、勅、奏、判、任官の總代各一人着床、ついで皇族、王族、公族總代各御一人御着床、次に掌典長、掌典を召して祓の事を命じ、掌典案前に進みて大祓詞を宣讀し、次に掌典大祓を執り諸員を祓ひ清め終つて、皇族以下次々退下せらるゝ趣である。

かやうにして宮中に於ては、節折の御儀に續いて大祓が行はれて、全國民代表のいはゆる百官の公式の祓が執行せらるゝのであるが、更に當日、神宮始め全國の神社に於て同様の儀が執り行はれてゐる。官國幣社以下神社の大祓式には地方官が參列することになつて居り、氏子、崇敬者等もまた之に加はり、宮中の祓式に呼應して、全國一齊にこの行事を勤行しつゝあるのである。而してこれ等の式次第を

通じて最も肝要なのは、いはゆる大祓詞の宣讀である。この詞の成立は、大祓の制度の確立とともに上代に起原するもので、その内容の雄大にして詞句の莊重なる、上代文學の最優第一のものと考へられてゐるが、要するに、我が皇國の淵源を反省し皇國民の重大責務を自覺すると共に、この皇國に、この皇國民に、暗き汚き罪穢の如きものがあつてはならぬから、上代からの式法に従つて、天神地祇の御照覽の下に、祓の行事を修すれば、其處に全く清新なる國と民とが生れ出ることを述べたものであるが、しかもこの詞の普通の神祭に奉讀する祝詞とかはつてゐる處は、それが、いはゆる宣讀（參列の諸員に宣り聞かす形式）されることで、この行事に參加するものの總てが、この詞の内容をしかと自覺體認することを求められてゐるのである。

來るべき昭和十五年は彌かしき紀元二千六百年に相當し、國家進展の一大時期を劃する年である。されば本月の大祓は公式に行はれる宮中並びに神社の儀を通じ、我等は常にもまして眞面目にこれに參ずると共に、更に廣く深きを期するのために、官民の間に於て、適當の方法を以てこの大祓の意義の體得と徹底とに努めなければならぬと思ふ。

事變第三年の海軍作戦

海軍省海軍軍事普及部

海軍作戦の経過と戦果

艦艇は連日、寒暑、風濤を克服して山東、江蘇、浙江、福建、廣東各省沿岸の間断なき封鎖を續行して、敵軍に對する海上輸送路を遮断し、或ひは沿岸の要衝を攻略、掃蕩、閉塞して、更に封鎖の強化を圖り、或ひは陸軍部隊の嚮導、揚陸掩護、陸戦協力に任じた外、揚子江、珠江、瀕河、射陽河その他の主要内河並びに鄱陽湖を始め幾多大小の湖上に遊江せる海軍部隊は水路を反復掃蕩、沿岸出發の殘敵を剿滅しつゝ、廣大なる我が兵站線の確保に任ずる一方、奥地水路の強行偵察、機雷堰排除を行ふ等日夜作戦進捗に奮闘し、航空部隊もまた艦艇、陸戦隊並びに陸軍部

隊の諸作戦に緊密且つ偉大なる寄與をなすと共に、敵後方のあらゆる軍事施設並びに奥地空軍基地を潰滅して重慶政府抗戦能力の撃滅に邁進してゐる。いま、事變第三年の初頭以來、海軍部隊が實施した主要作戦とその成果の概要を挙げれば次の通りである。

艦艇並びに陸戦隊

航行遮断の強化

過去二年に亘り支那船舶の航行遮断を完遂せる封鎖部隊は、更に第三國船にして我が占領地以外の港灣に出入して重慶政權の抗戦資材輸送を行ふものが多いのに鑑み、徹底的に之を阻止して遮断の目的を達成せんがため、本年六

月下旬より九月中旬に至る期間、炎熱風浪に抗しつゝ左記沿岸港灣の閉塞を完成した。

温州、福州、泉州、銅山港、詔安、汕尾、興化、三都澳、羅源、沙埕港、海門、湄州

海南島攻略作戦

二月十日、陸軍部隊の海南島北部澄邁灣揚陸を掩護し陸戦隊を以て、海口、瓊州の占領を援助した外、二月十四日海軍部隊獨力にて三亞港附近に敵前上陸を敢行、附近一帯を確保した。

爾來海軍陸戦部隊は主力を三亞方面に、一部を海口附近に置き、陸軍部隊と相呼應して殘敵の掃蕩、占領地域の擴大並びに治安維持に任じつゝある。

海州、淮陰地區掃蕩作戦

陸軍部隊の海州淮陰地區掃蕩戦に協力し、その上陸作戦を掩護せる外、二月二十八日响水港に至る漣河、三月八日阜甯に至る射陽河、三月十一日海州に至る臨洪江の各水路を啓開、いづれも所在陸軍部隊との連絡を完成した。

南昌攻略作戦

陸軍部隊の南昌攻略戦に呼應して三月中旬鄱陽湖、修水及び吳水の湖江作戦を實施し、惡天候を克服、頑敵を撃破して四月三日遂に南昌に至る水路を啓開、更に艦艇の一部は生米街に進出した。

汕頭攻略作戦

六月二十一日陸軍部隊を掩護して四溪河一帯の揚陸に成功せしめ、水路啓開隊は同日夕刻までに汕頭港内に至る水路を掃蕩開通した。

舟山叢島攻略作戦

五月二十一日より七月十七日に至る期間に於て、海軍部隊の獨力を以て岱山島及び附近數十の島嶼占領並びに殘敵掃蕩を完成し以て沿岸封鎖の強化に寄與した。

湘江作戦

九月二十三日陸軍部隊の一部を嚮導、營田附近の敵前上陸を成功せしめると共に、頑敵を撃攘しつゝ、同二十九日營田迄の湘江水路四十漚を啓開機雷五六〇箇を處分した。

高郵湖方面の掃蕩戦

陸軍部隊の高麗、實應方面掃蕩に協力して十月三日寶應、同日蔚家堀、同七日天長までの各水路を啓開した。

◆中山縣の攻略戦

陸軍部隊と呼應して十月七日中山縣城を攻略、掃蕩の目的を達成した後、十日撤退した。

◆揚子江並びに珠江水路の確保

中支並びに廣東方面所在陸軍部隊の主要兵站線たる兩江水路の安全確保に關し、海軍部隊は連日奮闘しつゝあり、目下揚子江下流に殘敵若干奮動して我が江上航行船舶を砲撃する箇所一、二あるも、その都度我が方の反撃制壓によつて何等支障なく我が輸送船の運航を實現しつゝある。

◆南寧作戦

十一月十五日列風を冒して陸軍部隊の欽州灣上陸を掩護し、陸戦隊を揚陸水上基地を獲得、その確保に任じた。

航空部隊

◆各地攻略並びに掃蕩戦協力

前記艦艇、陸戦隊及び陸軍部隊の實施せる諸作戦に對し

ては、その都度密接且つ有效なる協力をなし顯著なる戦果を收め、目下進行中の南寧攻略戦に於ても低雲、烈風と熾烈なる地上砲火を冒し全力を擧げて協力中である。

◆廣西補給路の攻撃

大陸全土に散在する敵の陣地、砲臺、兵舎、諸工場、軍需品倉庫、停車場、貨車、自動車、船舟、棧橋等の軍事施設を間斷なく粉砕又は炎上せしむると同時に、廣西輸送路（佛印より南寧、柳州、桂林に通ず）は敵抗戦資材輸送の大動脈たるを以て特に六月以降はその攻撃を強化してゐる。

◆奥地攻撃

奥地攻撃の主要なるものは蒙自、昆明、瀘州、成都、遂寧、西安、蘭州及び重慶に對するものであつて敵空軍の再起を不能ならしめると共に、諸軍備施設を徹底的に潰滅し、特に抗戦首都重慶に對する攻撃は回を重ねること二十四回及び諸機關を完膚なきまでに粉砕した。

戦果

以上の作戦に於て我が海軍部隊に依り處分せる敵機雷數

並びに敵飛行機に與へたる昭和十四年十二月二十日現在の損害は左表の通りである。

處分敵機雷數

年	揚子江方面		珠江方面	
	機雷	雷數	機雷	雷數
十三年	二、三三二	四一七	二、七三九	二、七三九
十四年	一、五二六	五〇四	二、〇三〇	二、〇三〇
計	三、八三八	九二一	四、七五九	四、七五九

敵飛行機に與へたる損害（附 我飛行機損傷）

年	確實		不確實	
	機雷	機雷	機雷	機雷
十二年	五二六	五二	一五八	九二五
十三年	七六七	一五八	二五	一四〇
十四年	一一五	二五	二三五	一、六四三
計	一、四〇八	二三五	一、六四三	一、六四三

（備考） 我損害 十二年六三、十三年五〇、十四年一九 計一四二

敵の冬季攻勢

陸軍省情報部

概況

我が軍は本年春敵の四月攻勢、秋九月攻勢を破滅したが、十二月に入り敵はいはゆる冬季攻勢を開始したので、我が將兵は酷寒の下、大陸の山野に奮闘してゐる。

歐洲戦争の蒋介石側に及ぼした影響は概して悪く、殊に我が北海作戦は援將物資の補給に一層の困難を加へ、新中央政権樹立の氣運は重慶政府部内を始め一般人心を和平に傾かしめつゝある。この際蒋介石としては居たゞまらず、

對外、對内示威策として手を打つたのがこの冬季攻勢であつて、相當の兵力を動かし、揚子江方面に重點をおいてかなり組織的に行つてゐる模様である。

各方面の状況

本攻勢の既に現れたものは次の如くである。

中支江北地区 信陽方面に於ては十二月十日頃から敵の行動稍々活潑となつて来た。わが部隊は十四日洋河鎮附近の敵二ヶ師を、十七日長臺關附近の敵を撃破した。又安陸北方地区に於ては十二日以來わが一部隊は四ヶ師の敵と交戦、その南方舊口鎮、仙桃鎮方面漢水左岸地区に於ては十二日頃以來敵四ヶ師と交戦中である。安陸方面に於ては五日頃以來敵約一ヶ師活動を開始したが、わが部隊は十二、十三日の兩日に互りこれを撃退した。

中支江南地区 通城、崇陽方面には十二日頃以來現はれた敵約二ヶ師と交戦中である。南昌方面に於ても現はれた少数の敵を撃破した。

青陽、蕪湖、西南方面に於ては敵は相當大兵力を集結し、十六日頃から行動を開始した。わが部隊は各方面に於て果

敢なる逆襲によりこれを捕捉殲滅しつつある。

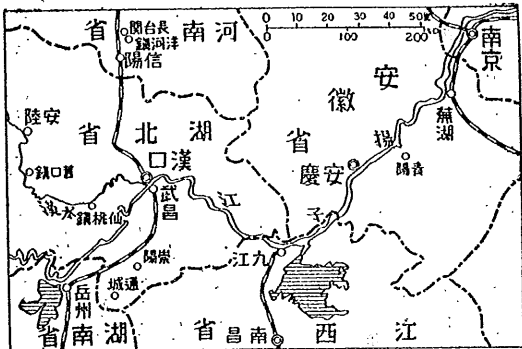
山西地区

山西南部同蒲鐵道東西兩地区に徘徊

しつつある敵は十日前後から攻勢を開始した。わが部隊は十日蘇縣(鐵道東)河津(鐵道西)附近に來攻した敵と交戦之を撃退した。

その他

津浦線方面、山東膠濟鐵道方面、開封方面にも敵が現はれ、各鐵道を遮断せん



と企圖してゐる。

結び

以上各方面に敵の蠢動を見るも各地に警備しあるわが部隊は寡を以て奮戦之を撃破しつつある状況である。

青少年義勇軍 現地報告座談會

昨春四月以來、大陸開拓の重責を荷つて滿蒙開拓義勇軍の若人が續々渡滿してゐるが、現地の實情はどうであらうか。視察者の報告だけでは不十分なので、現地訓練所で一農年を過ぎた訓練生の中から、一道府縣一人づゝ合計四十七名を呼び戻し、故國の各地にその實情を報告させた。これは折務省主催の座談會で彼等が語つた現地の實情である。

義勇軍を志望した動機と現在の諸君の氣持を……

稲田繁君(山形縣出身、北斗訓練所) 私が義勇軍に志願した動機は、滿洲で百姓をやらうと決心したのであります。なぜ滿洲で百姓をやらうと考へたかといふと、内地の農法、現在の農村を見ますと滿洲の方がよく、また我々が滿洲へ行くことは國策の線に沿ふと信じたからであります。

現地の訓練所に入所した當時は、内地で考へてゐたのは全然違つて、訓練所には假宿舍しかなく、私達が自分達の宿舍の建築から始めました。それで去年は建築に追はれて何も考へる暇はありませんでしたが、現在

は、内地にゐて考へてゐた滿洲よりもつと深く、相當に研究する餘地もあり、相當に難しいものだ、それだけまた我々の仕事にも楽しみがあるとそんなことを考へて居ります。

吉田久雄君(石川縣出身、大崗訓練所) 私は高等小學を卒業して齒科醫の家の技工の見習をやつてゐましたが、非常な退屈を感じました。その折偶々青少年義勇軍の募集があることを知つたので村に歸り、農業の先生に滿洲の事情を聞いたのであります。そして滿洲は自分に持つて來いところであると思つて、お父さんやお母さんに願つたのであります。が、どうしても聞いてくれません。それで親の許しを受けずに願書を出したのであります。それまで心が決つてゐたもので、すから親も已むなく許しました。

滿洲へ行きますと作業なんかで困難を覺えたことがあつたのであります。今

振り返つて見ますと、この困難が一番嫌しいことであつたと思ひます。今日では非常に立派な宿舎で、農作物の收穫も十分であり、食糧の方には心配は要りません。

齋藤大八郎君(熊本縣出身、李家訓練所) 私は學校時代子供心にも、滿洲とは一體どんなところかと考へて居りました。學校を卒業し家庭で家業に就んで居りましたが、どうしてもこれから先は滿洲でないと言つて行けない、狭い日本ではどうしても暮して行けない、さう思つたので親にも言はずに義勇隊の試験を受けたのであります。いよく出發の日になつて父母に承諾を求めましたが、親も私の決心にひかされて漸く許し、「ぢやー且國を出たならば一人前の人間になるまでこの家の戸口を踏いではいけない。」といはれました。

七月三日鐵嶺訓練所に入所しました

が、入つて見れば思つたより意外の苦心をしたのであります。天地根元作りといふ家に入りましたが、バラックで雨が降れば漏る、何の設備もない家で暮して居りましたが、月日が経つにつれて「ア、滿洲に来て自分は太當によかつた、日本にゐる時よりもよい。」とこゝで深く感じたのであります。

野村健君(福岡縣出身、龍鎮訓練所) 私はお恥しい話ですが、滿洲へ行つて何をやるか、目的といふものを十分認識して居らず、たゞ廣い滿洲、赤い夕陽の滿洲に憧れて義勇軍に参加しました。入所以來一年有半、その間に義勇軍の使命といふものを體驗しまして、我々の將來の使命、我々青年の行く途、進むべき途について固く「開拓精神を體得致しました。義勇軍入所前の自分の心と、一ヶ年半の訓練後の現在の心とを比較してみますと、その間に大きな心の變動を發見し

て、訓練の有難さをしみじみと感じます。本年の宿舎建設の状況を

奥津芳君(茨城縣出身、大林訓練所) 去年の宿舎は今年のものに較べて本當に悪かつたのです。温泉の焚口が悪くて宿舎の中が燻り、それに壁も悪いので、煙にむされながら朝起きて見ると蒲團の上に霜が降つてゐるやうな状況であつたのであります。今年の建築は壁も泥壁でなく、チャンとした白壁であり、焚口も室内に煙が入らぬやうになつてあります。

内藤寛君(長野縣出身、伊波台訓練所) 去年の訓練所も別に悪くはなかつたのですが、今年のは望み以上のものが出来たと思つて居ります。大橋邦次君(佐賀縣出身、薩爾圖訓練所) 昨年は九月七日に霜が降り寒くなつて来たのでトピース(土で作る煉瓦)を作

るのに困難して、能く乾燥しないトピースで作つたために温泉が蒸気を含んでゐる結果、落込んだりして煙突が温まらず寒かつた。それに土壁だつたので部屋の中が暗くてとても陰鬱でした。今度のは白壁で窓も二重ガラスであり、とても明るいものであります。

訓練所の病院はどんな様
様ですか

澤田光雄君(三重縣出身、哈爾濱特別訓練所) 哈爾濱訓練所は大訓練所に類するもので、病院も開拓團の病院と、義勇隊の病院の二つがあります。その外、表舎もあります。外科、内科、歯科の先生が三人と看護婦さんその他助手の方が五六名居られます。病氣は内地にあるとき弱かつた方が、現地に行つて少し胸の病に罹つた者、その他風邪が少し重くなつたものが主で、その他眼を手術した人が十人

ばかり入院してゐます。夏にはアミイバ赤痢で入院する人が相當居ります。十二月に入所した古い中隊はそんなことはないので、新しい中隊は七月に入所して急に暖くなつたので、作業に行つて喉が乾き、飲むな〜といはれてゐる水を飲んでアミイバ赤痢にかつたのです。

醫療設備は整つてゐるし、看護は十分に行届くし、大抵輕いのは一ヶ月以内で治ります。重い人は哈爾濱の中央病院に入院することになつてゐます。中央病院には今年その設備が出来、全滿の訓練所から相當重い病氣の人が入院してゐます。

開拓者のみんな罹る例の
屯墾病のことを話して下
さい……

菅野正男君(岩手縣出身、哈爾濱訓練所)

たとひ小さな日本海を越えた滿洲であつても生れ故郷を離れてゐれば、大人の人も必ず故郷が思はれて、つまり屯墾病にかゝります。義勇軍に屯墾病が多かつたのは年が若いせいと、これまでの現地生活が殆んど建設に追はれた忙し、苦しい生活であつた爲めではないかと思ひます。どうしてそれを征服したかといふと、家の父母から来た手紙による人もありますし、先生方の諄々たる御諭しによる人もあります。やうで御座いますが、結局ある一時期を過ぎると私達は屯墾病から抜け切つてしまふのであります。さうして抜け切つた時は前以上に開拓地に執着心を持つて來ますから、私は屯墾病は決して私達の爲めによくない、開拓の邪魔になるばかりとは言へないと思ひます。

齋藤大八郎君 僕の中隊にも最初はありませんでしたが、聞いてみると「俺は滿洲に

来て半年になるが、まだ家から手紙も来て、何度出しても返事が無い。それで僕もかうしてやつて来たが、どうしても働かぬ気が持たない。どうぞ僕の家へ手紙を出すやうに頼んでくれ。」と再三頼むのです。頼まれて手紙を書いたことが三三回ありますが、「病氣をしてゐて存分に手が廻らないからどうぞ激勵の手紙をくれ。」と書いてやりますと直ぐ来ました。その人も元氣ついて今では人に負けない働き振りをしています。

谷川正一君(福井縣出身、禁防訓練所) 自分も體験者の一人ですが、滿洲へ行つたら無茶苦茶に内地のお父さんお母さんのことが思ひ出されて日本海がなかつたら飛んで歸りたいやうな氣持がしました。しかしこの屯墾病も日本人であればこそ罹るのだと考へます。西洋人は個人主義で、家のない者は決してこんな病氣は起さないと思ひます。家からよこす

お母さんの便り、小學生から戴く激勵文の外には「薬」といふものは御座いません。私の治つた「薬」はお母さんからの手紙であります。義勇軍に入つてはじめて母親の有難味が分りました。

津谷幸八君(秋田縣出身、房州訓練所) 八月に大洪水があつて環礁と黄金子の間に崩壊して鐵道が不通になりましたので、私達中隊三百人の者が三日三晩晝夜兼行で工事して四日目に復舊しました。列車の乗客には訓練所から三度々々快

出しをして運びました。その時は我々も漸く世間から認められるやうになつたと喜びました。

池本久男君(徳島縣出身、追分鐵道自警村訓練所) 今年の七月十一日の零時半警護隊本部から電報が来ましたので、一つの驛に五名なり六名なり、七ヶ所に分れて、鐵道沿線の警備、鐵道巡察、防空監視の位置にいたのであります。それを約二十九日の間晝夜続けてやりました。

一番北の方で特別地帯にある 大額訓練所の状況を...

大稻が、今度立派に收穫を得ました。あの地帯は土質は他より悪いのですが、作物を作り得るだけの自信がついて居ります。作物を大分持つて来ましたが、内地では見れない、こんなに大きな、しかも内地のより良い入蔭、その他いろいろの蔬菜も十分に作ることが出来ました。

黒龍江の向ふには堂々たるブラゴエの町が見えます。自分達は漁業班といふものを作つて黒龍江のまん中で能く魚を獲つて来て食べます。そのために發動機船二艘を買ひました。他に小船三艘があります。先だつて發動機船の一艘が、發動機が動かなくなつて流され、ソ聯兵にとられてしまひました。向ふ岸へ五十米程接近したところソ聯兵が来て船の中へ乗り込んで来た。出口が一つしかないのので乗つてゐた三人はジツとしてゐて、ソ聯兵が降りて来て引張らうとした

時、裸になつて河へ飛び込み堂々とこつちへ泳いで来た。あんなことは義勇軍でなくては出来ぬ仕事だと思ひます。(拍手)

どんな方法で稲作をやつておますか 後山繁義君(長崎縣出身、鏡泊湖訓練所) 稲作といつても滿洲では簡單であります。内地で稲を作つてゐる滿洲へ行つてびっくりしました。どんなにするかといふと、廣く原野がある。そのちよつと平たいところばかりに畔を作ると、水を入れる。二三日潤してから草を拂つて少し均しただけで種を蒔く。蒔いただけで結構もうズン／＼出て来る。

全部粉塵にとれて終ひます。すると稲の方がかん／＼生きて来る。そのうちに草は稲に押されて自然になつて終ひます。それで草取りは別に一回位ならいいのです。種が澤山あつてこれをとるのが一番勞ですが、二度位で済みますから結構で、内地同様とはいへませんが、大差ない好結果を得られます。段當り三俵乃至四俵で、米の質も大して悪くはありません。手不足ですがもう少し考へれば内地と變りありません。

内地では二度も三度も耕し、その上肥料を施したりいろいろなことをしますが、滿洲ではたゞばら蒔いて三べん草をとれば結構一人前の稲がとれます。肥料をかけたなら全然獲れません。滿洲では遅くとも十月の中旬下旬までには刈取らないと箱でやられますから肥料をやると青いうちにやられてしまひます。それで現在では十年位は水田は無肥料で結構出来

るといふ確信を得ました。水田は半島人の方が現在では上手です。

齋藤大八郎君 僕等の訓練所の傍に川といへば水溜といへば水溜のやうなものがあつて、そこら一帯の土を鐵道工事に掘つてしまつた。その跡へ水田を作らうと種を蒔いたので。その時き方が内地の苗代のやうにたゞバラ蒔く、そのまま植えて置けば立派に自分で肥つて行く。僕等の方は草も大體蒔らなかつた。今年の十月半ばに收穫したら一段とないところで二三俵あつたのです。

内藤寛君 農業のことは満洲でも内地でも作物に變りないことは私が説明します。満洲で出来ないといはれてゐる甘藷、里芋、山芋等が昨年訓練所の試作地で見事に出来ました。それから内地では肥料をしますが、自分達の方は鹽鹼な土地で別に肥料をやらないうで何でも出来るのを實際有難く思つて居ります。

滿洲は五族協和の國ですが、
滿人をどう見ますか

後山繁義君 附合つてゐるとこつちの地方によつては向ふはどんなにでも優しい。こつちから正直に行けばとても正直に出て来る。一年半向ふにゐる内地へ歸ると、内地の人より滿人が附合ひ易いやうな氣がします。内地の人は利己主義に走り損徳に走つてゐるからちよつとしたことでも感情に走る。五族協和は第一日本人が愛を以て導く、即ち日本精神が最も肝要だと信じます。

高田徳重君 栃木縣出身、孫吳訓練所 始めの頃は言葉が分らないし、厭な目つきだといふ感じで餘り親しまない。豚なんか澤山あるんだから一頭ぐらゐるからうといふので失敬して来るものもあり、そんな關係で親しまない。その頃は恐れてゐたせいか自分達を大人と言つて

みたのが、この頃では爾的小孩(子供)と友達にされてしまつた。不思議に思つたのは滿人の馬がみんな片目潰れてゐる。滿語が分るやうになつて聞いてみると、昔匪賊が澤山ゐて直ぐ馬を殺戮するので、取つて行かないやうに潰したといふことです。

井上敬之君(山梨縣出身、南山市訓練所) 始めて滿人の家に行つた時は異臭がして入れなかつた。歓迎してくれませんが、お茶なども汚い油の浮いたやうな茶碗で飲む氣になりません。今では平氣です。奥津芳君 運動會は滿人と一緒にやります。お祭の時には滿人は日本人を歓迎して御飯を出して無理に食べさせる。滿人の方から日滿親善といふ言葉を言つて来る。何處へ行つても日滿親交を叫んでゐる。行つた時滿人が日の丸を持って城門の所へすつと竝んで最敬礼をして迎へて呉れたのは感謝しました。

後山繁義君(福島縣出身、寧安訓練所) 始めは滿人が日本語を教へてくれといふ、僕等も滿語を教へてくれと習ふ。お正月に滿人が御馳走するから是非来てくれといふので中隊全員で行つた。彼等が日滿一心と大きく書いて窓口に貼つて置く。滿人からかう叫ばれるのでは僕等もたゞでは見てられないといふ氣持になります。

稻田繁君 一緒に暮らしてみても自分達の心持を割合つて見る、これが大事なことではなからうかと思ひます。

慰問團、視察團について

後山繁義君 義勇軍視察とか、移民團視察とか言つて來られますが、一定のコースだけ、それも鐵道附近、義勇軍で言つたら哈爾濱あたりをちよつと見て、いろ／＼なことをたつた一日か、半日見て内地に歸りいろ／＼な流言を飛ばす。

視察に來たり廣範圍に互るよりむしろ一ヶ所に於て本當にその實情を調べるこゝとが肝要ではないかと思ひます。行かれるならなるたけ山の奥のやうなところへ行つて、そこにゐる青少年を激勵して貰つたら最も効果が擧がると思ひます。

衣食住についての希望

齋藤大八郎君 自分等の營養はなかなか設備が整つてゐるとんな寒い時でも裸で暮せるやうになつてゐる。何の望みもないのですが、たゞ一つ、部屋に天皇陛下の御影をどうか御願ひします。

竹田馨君 普通現地の配給品は夏服、冬服、防寒服、手袋、シャツ、その他日用品の要るものは一月一回づつ決つてゐる。いくら寒い時でも十分であります。その他必要なものは何でも請求してくれるので不自由はありません。嗜好品としては今度酒券が出來ました。現在

のところでは小遣は一錢も要らない有様です。

齋藤大八郎君 僕等は鐵道自警村で朝は米の御飯、晝夜は麥の御飯、時には粟の御飯を食べてゐますから、絶対に食物の心配はありません。

竹田馨君 今度内地へ歸つて旨い御飯を食へようといふ考へで汽車の中でも食べたけれども、上品ではありませんが本當の味はとても義勇隊の御飯や味噌汁には及ばない。大抵朝は漬物に味噌汁、晝は肴付物、魚、夕飯は味噌汁です。山盛三杯ぐらゐります。内地に來て義勇隊の御飯がとても旨いといつて感ぜました。

バルカンの情勢

外務省情報部

▼▼バルカンを繞る四つの工作 ▲▲

今やバルカン地方をめぐり、獨、ソ、英佛、伊の四つの工作が渦巻いてゐる。

先づドイツはバルカンの資源を確保し長期戦に備へんとし、ルーマニアへ働きかけ、ついで前大戦當時にも同關係にあつたブルガリア及びトルコを経て、近東地方への進出を目標としてゐる。

ソ聯は黒海協定と、汎スラヴ主義の二つを目標としてバルカン進出を企てて居り、トルコ、ルーマニア、ブルガリアの黒海沿岸諸國と黒海協定を結ぶことにより、黒海をソ聯の内海化させ、又、自己と同種のスラヴ人國家たるブルガリア、ユーゴスラヴィアとの大同團結により、ソ聯勢

力の伸展を計らうとしてゐるのである。

英佛はバルカンの現状を維持するといふ建前から、北より壓力の加はるドイツに對しても、又、東より迫るソ聯に對しても、ルーマニア、トルコ等を支援して、それら獨ソ勢力のバルカンに進入することを防ぎつゝある。

イタリアはハンガリー、ユーゴスラヴィアを地盤として、ギリシヤ、ブルガリアへ働きかけ、バルカン中立ブロックの結成に努力を拂つてゐる。

そしてこれらの諸勢力の渦巻くバルカン地方に於て、目下注視的となつてゐるのがルーマニアとブルガリアの動向である。ルーマニアは資源上からドイツ進出の焦點とされ、且つソ聯から失地回復の要求のみならず、ソ聯の汎スラヴ主義により包圍される懸念強く、その他ハンガリー

及びブルガリアからも失地回復を迫られる立場におかれてゐる。ブルガリアは現状打破の立場に於てバルカン焦點の一つと見做されて居り、ルーマニア、ユーゴスラヴィア、ギリシヤに對し失地回復要求の機を窺つてゐるのである。

▼▼イタリア、ソ聯に備ふ ▲▲

去る十月十九日に成立した英佛土三國相互援助協定について、同二十四日、イタリアとユーゴスラヴィアとの間に新通商協定が成立し、イタリアはユーゴスラヴィアより小麦、牛馬、礦石、木材を輸入すると共に、ユーゴスラヴィアへ繊維、工業製品を輸出することとなつた。そして、伊ユ通商協定の締結は、アルバニアを根據地としてイタリアがバルカンに有する權益の確保に一步を進めると共に、ソ聯勢力のバルカン侵入に備へる意味も含まれ、それによつてユーゴスラヴィアにある原料品の一部をイタリアのために確保し、他國勢力のユーゴスラヴィアに對する經濟侵略を阻止することにより、政治的にも實效を得る一石二鳥の目的が含まれてゐると評されてゐた。

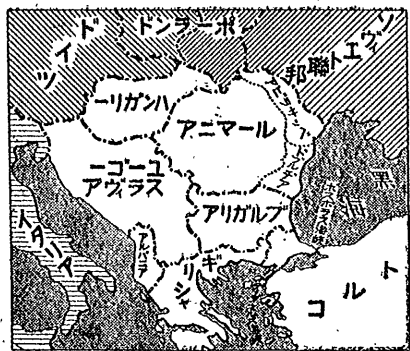
ついで十一月二日に至り、イタリアはかねて折衝中であつたギリシヤと不可侵條約を締結し、同四日にはブルガリアとの通商協定に正式調印を行ひ、こゝにイタリアは今春五月ルーマニアと締結した伊羅通商協定と共に、バルカン地方の主要四ヶ國たるルーマニア、ユーゴスラヴィア、ギリシヤ、ブルガリアとの間にそれら友好的な通商協定を完成し、經濟方面よりイタリアの對バルカン策は差當り一段落したのであつた。

更に十一月二十四日に至り、イタリアはハンガリーとの間に新通商協定を締結し、今次歐洲大戰勃發後に於ける新事態に即應し伊洪兩國の經濟關係を一層緊密化した。

以上の如く、ソ聯のバルカン進出に反對するイタリアは、ユーゴスラヴィアを中心としてバルカン中立運動の工作を進めつゝあつたが、トルコ及びルーマニアも對ソ脅威のために次第にイタリア側へ接近し、イタリアの支持の下に、對ソ共同防衛を約さうとする傾向が強くなり、ソ聯のフィンランド進出により俄然世界に舉つた反ソ空氣が逸早くバルカンに於いても爆發するものとの豫想が傳へられてゐる。

ソ聯の進出とトルコの態度

一方ソ聯のバルカン進出は對分工作の一段落つき次第、いよく實現されるものと見て、バルカン諸國は對策に腐心してゐる。とりわけルーマニア領ベッサラビア侵入は、ソ



聯のバルカン進出の第一歩として豫想されてゐる處であるが、それに伴つて地中海よりルーマニアへの通路を扼するダーダネルス、ボスポラス兩海峡閉鎖の鍵を握るトルコの動向が重大視されるのである。

即ち、トルコは中立を守る場合、さきのモントルー條約により、同國と相互援助條約を結んでゐる國の軍艦の海峡通過に對する拒否は任意に行へる事となつてゐるのみならず、

新中立ブロック計畫

それよりさき、ルーマニアに對する獨ソ側の進出が漸次積極化するや、十一月中旬に至り、ルーマニア、トルコ、ユーゴスラヴィア、ギリシャの四ヶ國間にあるバルカン協商（一九三四年三月に成立したものでバルカンの現状維持及びそれら相互國境の保障を約したもの）を基礎としてブルガリア及びハンガリーをも加入させて、新バルカン中立ブロックを結成しようとする工作が次第に具體化しつゝありと報ぜられ、ルーマニアのカロル國王はブルガリア政府に對し、國境の相互保障を條件とする新バルカン中立ブロックにブルガリアが参加する代償として、かねてよりブルガリアが要望してゐたドブルチアを返還する用意ある旨の言明が行はれたと傳へられた。ドブルチアの返還問題は既に今次大戰勃發の前後を通じ、英佛より直接に又はトルコを介してルーマニアへ勸告して來て居り、又、ソ聯もブルガリア工作に利用するために英佛同様勸告した事もあり、従

らず、英佛土相互援助條約の議定書に規定されてゐる留保條項にも「各全權は本條約によりトルコの負へる義務はトルコをしてソ聯との武裝紛争に入ることを強制し得るものにあらざる事に同意す」とある通り、ソ聯のベッサラビア侵入に對してトルコは英佛を援助する義務なしと解釋されてゐる。

ソ聯としては若しベッサラビア進出を敢て行ふ場合、ルーマニア援助のために地中海から黒海へ進入しようとする英佛艦隊の兩海峡通過を、トルコが許容するやうな事は決して黙出出来ない事であり、従つてソ聯はこの點について既に充分な諒解をトルコ側から得るやうに努力して來て居り、先頭のソ土交渉に於てサラヂェグル土外相はモロトフ外務人民委員に對して、ソ聯軍のベッサラビア進軍が起される場合に、トルコは英佛軍艦の海峡通過を許可せぬ旨を約束したとさへ傳へられてゐた程であつた。故に、それらの經過からして、若しベッサラビア紛争が勃發する場合は、トルコは中立を持続するものと見做されてゐるのであるが、最近英佛側はトルコに對し英佛軍艦の海峡通過の自

つてルーマニアとしては何れは返還せねばならぬと觀念してゐた處であり、バルカン中立ブロック成立の機運に臨み、進んでブルガリアへ返還を申出で、それによつてバルカン中立ブロック引入れ工作に利用しようとするものと傳へられたのであつた。

然しながら、このバルカン中立ブロック計畫はルーマニアの提議によつたものであるが、實際にはルーマニアとトルコとの合作で英佛を背景とするものと見られてゐたのである。そして彼等は今次の戦争が行はれてゐる間、現在のバルカン協商四ヶ國にブルガリア及びハンガリーを加へたブロックを造り、嚴正中立を標榜して戰禍がバルカン地方へ波及せぬやう企てたのであるが、それに對しブルガリアは一應賛成したものの、近來ソ聯との交渉が進捗するにつれ、同國內には親ソ派の勢力が擡頭し漸次英佛側と離反する傾向を示して居り、結局参加出来なかつた。又、ハンガリーに於ては、ルーマニア領内のハンガリー少數民族に對するルーマニア政府の態度について非常な不満があるのみならず、ハンガリーの最も友邦とするイタリアはイタリ

露光量違いにより重複撮影

ア自身を盟主とする別箇の中立ブロックを計畫して居り、従つてハンガリーはルーマニアの提唱したバルカン中立ブロックに賛成しなかつた。

獨ソ兩國もルーマニア提唱のバルカン中立ブロック結成に對しては、それが英佛勢力を背景とする點に於て、極力その實現を阻止したのである。

かくして、英佛を背景としてルーマニア及びトルコが企てたバルカン中立ブロックの結成は、ブルガリア及びハンガリーの不参加、ならびに獨ソ伊三國の反對に遭つて失敗に歸したのである。しかし英佛側のバルカン協商(ルーマニア、トルコ、ユーゴスラヴィア、ギリシヤ)を基礎とするバルカン中立ブロック計畫は、イタリア側のユーゴスラヴィア、ハンガリーを基礎とするバルカン中立ブロックへつとめて接近するやう努力して居り、少くともソ聯のバルカン進出に對しては兩中立ブロックの一致する可能性は絶無ではないのである。

その後、バルカンの情勢はイタリアとギリシヤとの間に

友好關係が回復され、又、ソ聯のルーマニアに對するベッサラビア進入が、少くとも明春の雪どけ頃まで延期が傳へられ、更にイタリアの中立も當分持續されるものと見られるに至り、従つて大體に於てバルカン全體の緊張が緩和され、ソ聯のベッサラビア進入斷行等の突發事件が起きぬ限りさし當り小康を保つものと思はれる。

雪融けまでは小康か

表發選入品作送放念記年百六千二元紀

<p>▲本誌より轉載の場合には必ず「複製何種より轉載」の旨を明記し、且つ右轉載を内閣府郵政省印刷局第三部御送付下さい。</p> <p>▲本誌記事の無断複製は御断り致します。</p> <p>▲掲載記事に對する御希望や御意見を、御意見も御希望も御断りせず、且つ、御意見を本誌へお送りの方は、郵政省印刷局第一課五階▲本誌へ廣告御希望の方は内閣府印刷局へお送り下さい。</p>	<p>▲本誌より轉載の場合には必ず「複製何種より轉載」の旨を明記し、且つ右轉載を内閣府郵政省印刷局第三部御送付下さい。</p> <p>▲本誌記事の無断複製は御断り致します。</p> <p>▲掲載記事に對する御希望や御意見を、御意見も御希望も御断りせず、且つ、御意見を本誌へお送りの方は、郵政省印刷局第一課五階▲本誌へ廣告御希望の方は内閣府印刷局へお送り下さい。</p>	<p>▲本誌より轉載の場合には必ず「複製何種より轉載」の旨を明記し、且つ右轉載を内閣府郵政省印刷局第三部御送付下さい。</p> <p>▲本誌記事の無断複製は御断り致します。</p> <p>▲掲載記事に對する御希望や御意見を、御意見も御希望も御断りせず、且つ、御意見を本誌へお送りの方は、郵政省印刷局第一課五階▲本誌へ廣告御希望の方は内閣府印刷局へお送り下さい。</p>	<p>▲本誌より轉載の場合には必ず「複製何種より轉載」の旨を明記し、且つ右轉載を内閣府郵政省印刷局第三部御送付下さい。</p> <p>▲本誌記事の無断複製は御断り致します。</p> <p>▲掲載記事に對する御希望や御意見を、御意見も御希望も御断りせず、且つ、御意見を本誌へお送りの方は、郵政省印刷局第一課五階▲本誌へ廣告御希望の方は内閣府印刷局へお送り下さい。</p>
--	--	--	--

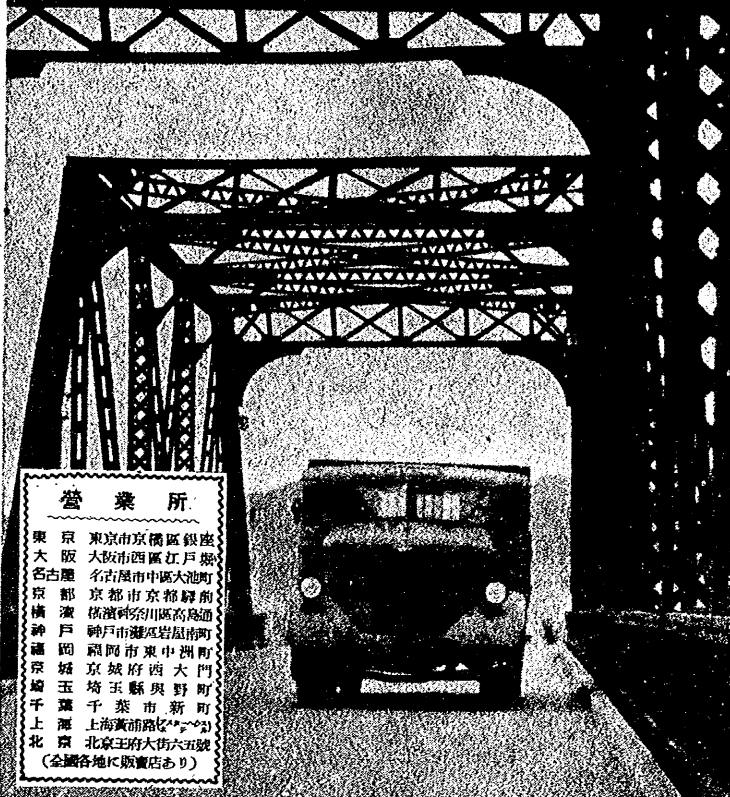
會協送放本日人法園社

意注御	所込申	價定	部
<p>▲本誌より轉載の場合には必ず「複製何種より轉載」の旨を明記し、且つ右轉載を内閣府郵政省印刷局第三部御送付下さい。</p> <p>▲本誌記事の無断複製は御断り致します。</p> <p>▲掲載記事に對する御希望や御意見を、御意見も御希望も御断りせず、且つ、御意見を本誌へお送りの方は、郵政省印刷局第一課五階▲本誌へ廣告御希望の方は内閣府印刷局へお送り下さい。</p>	<p>▲本誌より轉載の場合には必ず「複製何種より轉載」の旨を明記し、且つ右轉載を内閣府郵政省印刷局第三部御送付下さい。</p> <p>▲本誌記事の無断複製は御断り致します。</p> <p>▲掲載記事に對する御希望や御意見を、御意見も御希望も御断りせず、且つ、御意見を本誌へお送りの方は、郵政省印刷局第一課五階▲本誌へ廣告御希望の方は内閣府印刷局へお送り下さい。</p>	<p>▲本誌より轉載の場合には必ず「複製何種より轉載」の旨を明記し、且つ右轉載を内閣府郵政省印刷局第三部御送付下さい。</p> <p>▲本誌記事の無断複製は御断り致します。</p> <p>▲掲載記事に對する御希望や御意見を、御意見も御希望も御断りせず、且つ、御意見を本誌へお送りの方は、郵政省印刷局第一課五階▲本誌へ廣告御希望の方は内閣府印刷局へお送り下さい。</p>	<p>▲本誌より轉載の場合には必ず「複製何種より轉載」の旨を明記し、且つ右轉載を内閣府郵政省印刷局第三部御送付下さい。</p> <p>▲本誌記事の無断複製は御断り致します。</p> <p>▲掲載記事に對する御希望や御意見を、御意見も御希望も御断りせず、且つ、御意見を本誌へお送りの方は、郵政省印刷局第一課五階▲本誌へ廣告御希望の方は内閣府印刷局へお送り下さい。</p>

昭和十四年十一月十七日 第三種郵便物認可 毎週一回水曜日発行

ニッサントラック・バス

ニッサントラック・バスは、強力、耐久、経済等長
多の特長を有する外、更に非常時下の國策車としてそのエン
ジンは壓縮比高く、最も強力な新炭自動車として好適と認め
られ、世界の稱賛を博して居ります。



営業所

- 東京 東京市京橋區銀座
 - 大阪 大阪市西區江戸堀
 - 名古屋 名古屋市中區大池町
 - 京都 京都市京都府前
 - 横浜 横浜市磯子區高島町
 - 神戸 神戸市灘區岩屋町
 - 神戶 神戶市東中區西町
 - 京橋 京橋府西大門
 - 埼玉 埼玉縣與野町
 - 千葉 千葉市新町
 - 上海 上海黃浦路
 - 北京 北京王府大街六五號
- (全國各地に販賣店あり)

東京 日産自動車販賣株式会社 丸の内

内閣印刷局印刷發行

(判LA51 格規定國はさき大の書本)

週報

一月三日號

第一六八號

昭和十五年一月三日發行

（每週一回外埠日發行）



五錢

紀元二千六百年の祝典
今年の精動は如何にすべきか
支那事變處理と陸軍
紀元二千六百年と帝國海軍
東亞觀光ル—ト
皮革 戰時統制物資講座(6)
現地 經濟的に見た南支
寄稿

露光量違いにより重複撮影



るあ輝光
年百六千二紀元
設建の序秩新亞東路一

事變第四年を迎ふ

紀元二千六百年、この輝かしい年を迎へて、我々が今更ながら驚かされるのは、日本が歩んで来た歴史の偉大さである。しかし今は、悠久二千六百年の足跡を徒らに讃美し、回想の夢を追つてゐるときではない。我々が今直面してゐる現實は深刻であり、急である。即ち、この燦然たる過去の行跡を足場にして、更にこれを將來に向つて進展させ、飛躍させる興亞躍進の一路あるのみである。

世紀の黎明、東亞新秩序建設の炬火はすでに燃え上つた。「和平救國」「善隣友好」の旗の下に立ち上つた汪精衛は、今、更生新支那中央政府の實現に邁進しつゝある。我々はこれに對して支援を惜しまないが、しかし、中央政府が成立したといつても、決してそれは事變の終結を意味するものではない。事變の處理は寧ろこれから、こゝに具體的の第一歩を踏み出したと考へねばならない。

新東亞建設の道は決して容易ではない。しかし我々は右にかぶりついても戦ひ抜かねばならない。これを乗切るか否かの鍵は、他ならぬ國民のうちにある。そして支那事變の處理、新東亞の建設といふこと、これこそ我々に課せられた紀元二千六百年の課題であり、使命である。

週報 (一月三日)

—内閣情報部編輯—

紀元二千六百年祝典について

内閣紀元二千六百年祝典事務局：二

今年の精勤は如何にすべきか

内閣情報部：六

支那事變處理と陸軍 陸軍省情報部：五

紀元二千六百年と帝國海軍 海軍省海軍事務及部：七

東亞觀光ルート 國際觀光局：六

臨時特別物價管理 農林省

皮 革 商 工 省：五

現地 經濟的に見た南支

南支派遣軍報道部：三

最近公布の法令 内閣官房庶務課：四

日本人の生命圖鑑：一